

令和6年度

研究紀要

第 2 0 号

秋田県立横手清陵学院中学校・高等学校

「フィルターバブル」の外側へ

校長 庫山 徹

車での通勤中はラジオを聴いていることが多い。時折流れる音楽は、昔聴いた懐かしい曲のこともあるれば、あまり馴染みのない最近の曲のこともある。忘れかけていた懐かしい音楽と再会し、昔のCDを探して、またじっくりと聴いたりすることもある。また時には、それまでに聴いたことのなかった新しいアーティストを知ることもある。ラジオCMで「たまたま出逢い」がラジオの良さだと訴えているものがあるが、確かにその通りだと思う。1か月ほど前から、ラジオCMがきっかけで、音楽ストリーミングサービスのアプリを使っている。初めに生年月日と好きなアーティスト3組を登録して使い始めると、勝手に私の「プレイリスト」を表示してくれる。70年代や80年代（自分が若かりし頃の昭和の時代）の懐かしい音楽が次々と登場する。自分で何もしなくても自動的に好みの音楽が再生されるその便利さに感動した。ただ、徐々にその状態に何か居心地の悪さを感じてもいる。

インターネット上で情報流通の特徴を表すものの一つに「フィルターバブル」と呼ばれるものがある。総務省によると、「アルゴリズムがネット利用者個人の検索履歴やクリック履歴を分析し学習することで、個々のユーザーにとっては望むと望まざるにかかわらず見たい情報が優先的に表示され、利用者の観点に合わない情報からは隔離され、自身の考え方や価値観の「バブル（泡）」の中に孤立するという情報環境を指す。」とある。インターネット利用において、過去の検索履歴やネット通販の閲覧記録などから、個人の趣味嗜好、興味関心に応じた広告が表示されることや、インターネットのニュースサイトが、過去の閲覧履歴を基に利用者個人が関心をもっていると思われる分野のニュースを優先的に表示することなどはその一例と言える。

このフィルターバブルの問題点として、「自分の関心とは異なる情報に触れにくくなり、他の意見が存在することに気づかなくさせる可能性をもたらす」ということが危惧されている。AI技術が進化する中でこの状況は一層強まっていくものと思われるが、物心ついた時からこの環境にある生徒たちは、その危険性に気づかないままフィルターバブルの中にいるのではないか。そこに閉じ籠らないようにするために、興味関心が「ある」「ない」に関わらず多くの情報に触れること、むしろ自分が興味をもたないことの情報に触れて新たな知識を得ること、そして、他人の考えを自分の意見と錯認せず、自分自身の考えをもつ習慣を身につけることなどが大切になる。

こういった観点でみたとき、授業の果たす役割は大きい。生徒は教育課程に示された（時間割に組み込まれた）科目を履修する。そして高校生の場合は、その科目での学習成果を評価され単位を修得していく。学ぶ科目や内容は国が示した学習指導要領とそれに基づいた各学校の教育課程によっている。必ずしも生徒一人一人の興味関心に合わせたものではない。「好むと好まざるに問わらず」その学問（教科科目）を学ぶ（学ばされる）わけである。その科目に興味関心を示さない生徒を、いかにしてその学問の入り口に立たせるか、いかにしてその学問の知識の重要さに気づかせるか、いかにしてその学問の見方考え方のよさに気づかせるか。すなわち、いかにして生徒をフィルターバブルの外側へ導くか。そういう観点での授業づくりが必要になってくる。「個別最適な学び」は、生徒個人の興味関心に応じて学ぶことではない。教師の力量が求められる。

多くの情報がインターネットにより手に入るという単純な情報化社会から、膨大な情報から劳せず自分自身の価値観（興味関心）に合った情報だけが得られる時代へと変わってきている。AI技術の進化により与えられる自分にとって心地よいものを享受するだけではなく、自ら価値あるものを見出し、作り上げていく姿勢を日々の授業を通して生徒に身に付けさせたいものである。

令和6年度 研究紀要（第20号） 目次

1 研究授業および校内研修の記録

（1）中学校指導主事訪問

- ・中高連携の授業改善への取組について
- ・令和6年度指導主事計画訪問一覧
- ・令和6年度生徒指導計画訪問授業一覧

国語	佐藤 千春
保健体育	打川 淳 (T1)
	神谷 忠昭 (T2)
外国語（英語）	押切裕美子 (T1)
	三浦 亮 (T2)

（2）高等学校指導主事訪問

- ・実施要項
- ・学習指導案

理科	「物理」	釜田 博一
保健体育	「保健」	小野 孝之
工業	「製図」	松井 泰紀

- ・全体会の記録

（3）校外研修の記録

- ・秋田県高等学校教育研究会工業部会工業教育研修会 藤田 悠太
- ・第13回全国工業教育指導者養成講習会 小松 直鎮

（4）年次研修の記録

- ・実践的指導力習得研修講座（高等学校2年目） 小野 孝之
- ・実践的指導力習得研修講座（高等学校8年目） 藤田 悠太
- ・中堅教諭等資質向上研修講座 沼倉 健

2 探究活動について

須田 宏
田口 朋美

中高連携の授業改善への取組について

研修・研究部では、中高連携を通した授業改善として以下のような取組を実施した。

今年度は、中学校で国語・英語・保健体育・生徒指導の指導主事訪問があり、中・高教員合同での教科研修会と中学校教員全員での全体研修会、という二通りの研修会を開催した。英語と保健体育の研究授業は中高の教員とのチームティーチングであったことや、生徒指導の指導主事訪問では、全体研修会のテーマを「SNSのトラブルを阻止するための対策について」であったことから、当該教科以外の高校教員にも参加してもらい、中高両教員で研修を深めた。

さらに、中学1年生が高校の総合技術科の授業を体験をしたり、高校の探究発表会に中学生が参加したりしたが、中学生から高校の教員や高校生に質問する場面があり、中高一貫校として6年間を通して系統的な学びの場であるということを、教職員が再認識することができた。

次年度も中高教員で情報交換や連携を図りながら、授業改善について研修する機会を積極的に設けて共通理解を深めていきたいと考えている。

中学校…共通実践事項を意識した授業改善を推進していく。共通実践事項の意識付けと、授業の振り返りアンケートや学習集会での生徒の声を、授業改善に生かした取組みをする。

中高連携…国語、英語、保健体育、生徒指導の指導主事訪問の際に、高校教員との研修会を行うことで、中高6年間を通して系統的な指導のあり方について研修を深める。道徳に関しては、高校の道徳授業の実践について中学校の教員と情報交換をしたり、高校の教員に、ゲストティーチャーとして協力してもらう場面を設定したりするなど、中高で共に道徳の授業を進めていく機会を設ける。

高校…共通実践事項を踏まえた授業改善に努める。ICTを生かした授業について、中学校と連携して授業改善に取り組む。

中学校 〈研究テーマ〉

自ら問題を発見し、多様な関わりの中で主体的・対話的に探究し、学び続けようとする生徒の育成

〈共通実践事項〉

- ・「探究の時間」の充実を目指し、学年や校種の枠を超えた全体発表会の実施と年間指導計画の見直し
- ・自分の考えを発表する機会の保障(相手に伝わる話し方を意識して)
- ・視点を明確にした振り返り活動
- ・方向性や視点を明確にした話し合い活動
- ・ICTの効果的な活用(活動場面に応じた工夫)

高等学校 〈授業改善のテーマ〉

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けての教師側の手立ての工夫

〈共通実践事項〉

- 1 導入の工夫と学習課題の明示
- 2 ICTを活用した効率的、能動的かつ協同的な授業展開と教育効果の向上

令和6年度 指導主事計画訪問一覧

<研究主題>

自ら問題を発見し、多様な関わりの中で主体的・対話的に探究し、学び続けようとする生徒の育成

1. 期日 令和6年9月12日（木）

教科等 国語科

指導者 南教育事務所雄勝出張所指導主事 佐藤和歌子 先生

校時	学級	教科等	単元名	授業者
4	1年A組	国 語	作者の思いを読み取ろう ～描写に着目して登場人物の心情を捉える～	佐藤千春

教科等 英語科

指導者 南教育事務所雄勝出張所指導主事 内藤英典 先生

校時	学級	教科等	単元名	授業者
4	2年A組	英 語	Unit4 Homestay in the United States	押切裕美子 三浦 亮 Megan Chamberlain

2. 期日 令和6年10月17日（木）

教科等 生徒指導

指導者 南教育事務所指導主事 大山豊 先生

校時	学級	教科等	単元名	授業者
4	1年A組	英 語	Unit 6 身近な人について紹介しよう	佐藤江梨子 押切裕美子
	2年A組	数 学	並行と合同	長沢留美子 利 敬一郎
	3年A組	理 科	エネルギーと仕事	高橋 聰子 小松 裕太

3. 期日 令和6年11月20日（水）

教科等 保健体育科

指導者 南教育事務所仙北出張所指導主事 後松静香 先生

校時	学級	教科等	単元名	授業者
4	1年A組	保健体育	武道（柔道） 「柔よく剛を制す 極めろ！固め技マスター」	打川 淳 神谷 忠昭

令和6年10月17日(木)
計画訪問(生徒指導計画訪問) (横手清陵学院中学校)

授業一覧

No	校時	年組	授業者	教科等	上段(「単元(題材)名」・本時のねらい) 下段(本時のねらいを達成するための生徒指導の実践上の視点を踏まえた手立て)	活動場所
	4 校時	1年A組	佐藤江梨子 (T1) 押切裕美子 (T2)	英語	Unit6 身近な人について紹介しよう 聞き手を意識して、内容が聞き手に伝わるよう に適切な英語表現を用いてスピーチする。 ----- スピーチの内容や聞き手に伝える工夫につい て、よかったですを認め合い、助言を与え合うなど 生徒同士の相互評価の場面を設定する。	IA教室 多目的室
	4 校時	2年A組	長沢留美子 利 敬一郎	数学	「平行と合同」 根拠となることがらを明らかにして、作図の方 法を証明することができる。 ----- 生徒が自らの学習のペースに合わせてコースを 選択できるようにしたり、根拠を明らかにして他 者へ説明する場面を設定したりする。	探究Room 1 探究Room 2
	4 校時	3年A組	高橋聰子 (T1) 小松裕太 (T2)	理科	「エネルギーと仕事」 エネルギーの変換の際に一部が目的外のエネル ギーに変換されるが、エネルギーの総量は保存さ れることを説明できる。 ----- 根拠をもったまとめができるように、手回し発 電機で発電したときの様子を観察したり、自分の 考えと友達の考えを比較する場面を設定したりす る。	生物室

第1学年A組 国語科学習指導案

指導者 佐藤 千春

- 1 単元名 作者の思いを読み取ろう～描写に着目して登場人物の心情を捉える～
(教材名「大人になれなかった弟たちに……」)

2 単元の目標

- (1) 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通じて語感を磨き語彙を豊かにことができる。 【知識及び技能】(1) ウ
- (2) 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】C (1) イ
- (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 【学びに向かう力、人間性等】

3 生徒と単元

(1) 生徒について

生徒は国語の学習に意欲的に取り組んでいる。長文を読むことに抵抗を感じる生徒は少数で、読後の感想の交流も積極的に行う。また、夏休みの課題の作文は読書感想文を選んだ生徒が半数近くもいた。中学校に入学して初めての物語作品「シンシュン」の学習では、小学校での既習事項を生かしながら、場面の展開に合わせて変化する登場人物の心情を考えることができた。しかし、暗示性や象徴性のある表現に着目して読んだり、自身の経験と結び付けて考えをより深めたりすることには、まだ課題があると感じる。

(2) 単元について

本単元は、第1学年の【思考力、判断力、表現力等】C(1)イ「場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること。」をねらいとするものである。

ここで扱う「大人になれなかった弟たちに……」は、戦争によって、大人も子どもも関係なく生死を分かつ判断を強いられること、そして、自らの加害者性と被害者性の両面の直視なしには、戦争の本質を語ることはできないことを伝えている。一般的には思い出がつらいものであればあるほど、隠したい、忘れないという心情にとらわれるものだが、作品の意図はそれとは異なる。作者は作品の中で、自分がミルクを盗み飲みしたことが弟の死の間接的な原因につながるという、自身の罪と向き合っている。また、直接的な感情語彙を使用せず、戦時下の暮らしの事実を淡々と語っている。他に、人物の描写、会話文、情景描写、繰り返し表現の多用、固有名詞の片仮名表記など、着目したい多数の表現の工夫がある。ここから登場人物の心情をより深く捉え、さらに自分の考えを深めていくことが期待できる。

また、本単元では「作者が私たちに伝えたいことを考える」ことを言語活動として位置付ける。文章から捉えた登場人物の心情や物語の全体像などから自分の考えをまとめ、仲間と交流することでそれを確かなものにできると考える。

(3) 指導にあたって

本教材は太平洋戦争時代の作者の実体験が描かれており、戦争を知らない世代の生徒たちが共感することはとても難しいことである。戦争に関する予備知識なしにこの作品を解読することはできないが、その情報の伝達に終始しては、国語の言葉の学びは成立しなくなる。そこで、今回は「作者が私たちに伝えたいことは何だろうか」という学習課題の基、作品を読解して自分が考えたことをワークシートにまとめていく活動を行う。授業では、「本文の描写を根拠として作者の作品に込めた思いを読み取る」学習活動を中心とするが、関連する図書を教室に準備して、「作品の背景について調べる」活動を個人

の必要に応じて、取り入れられるようにしていく。また、朝読書などを利用して、「戦時下に何があつたのかを知り戦争についての考えを広めるための読書活動」も行っていく。

① 「なぜ」を大事にし、主体的に学ぶための手立て

作品全体にちりばめられている場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などの描写について、読み手として自分はどこに着目するのかを判断できるようにする。また、こういった学習では登場人物の言動に注目しがちだが、情景描写の変化や率直な語り口、表記の仕方にも意識を向けさせ、既習を想起させることで、より深く考えることができるようになる。同時に、読書活動などを通して先人たちの戦争体験について学び、戦争や平和の問題を自分のこととして捉えるように支援する。

② 自分の考えを表現し、他者との関わりを通して協働的に問題を解決していく手立て

本単元では、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などから「作者が私たちに伝えたいこと」について考える。同じ作品を読んでいても、生徒自身の経験により、考えることや作品から受けた印象は違いがある。選んだ部分を根拠として考えたことを言葉にして他者と交流することで、同じ作品をいろいろな方向から考えることができるようになる。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して語感を磨き語彙を豊かにしている。(1) ウ	○ 「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。(C(1)イ)	○ 進んで登場人物の相互関係などを捉え、学習課題に沿って考えたことを文章にまとめようとしている。

5 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
1	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の背景についての基礎知識を確認する。 ・本文を通読し、初発の感想を書く。 ・初発の感想を基に学習課題を設定する。 ・学習の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争に関する予備知識の伝達のみにならないようにする。 ・気になる描写や疑問点に線を引きながら通読するよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な資料から作品の背景について調べたり、登場人物の相互関係や心情を表す描写に着目したりして、感想を書いている。 <p>【主】ワークシート</p>
2 3 4 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で線を引いた箇所を全体で共有する。 ・自分が考えたい本文の描写を選択する。 ・自分が選んだ部分について、登場人物の心情や表現の効果について考える。 ・考えたことを、グループで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・描写を選ぶことに難儀する生徒には、既習事項を振り返りながら、心情が表れている描写を探すよう助言する。 ・同じ部分を取り上げ考えている友達と、本文の描写や表現の効果について話合えるよう、あらかじめグループを決めておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象や行為、心情を表す語句に気付き、登場人物の心情や場面の展開などについて考えようとしている。 <p>【知・技】観察、ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ本文の描写から、登場人物の相互関係や心情を読み取ったり、表現の効果について考えたりしている。 <p>【思・判・表】ワークシート</p>

5	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに考えたことを基に、「作者が私たちに伝えたいこと」を書く。 ・書いたことを全体で共有する。 ・単元のまとめ、振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの描写や表現を根拠に考えたのかわかるように書くよう支援する。 ・仲間が考えたこととの共通点や相違点を意識しながら、自分の考えの変容がわかるようまとめや振り返りができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が選んだ描写や表現の効果について考えたことを基に、作者の伝えたいことを書いていく。 <p>[思・判・表] ①観察、ワークシート</p>
---	---	--	--

6 本時の学習(4／5時間)

(1) ねらい

- ・自分が選んだ本文の描写から、登場人物の相互関係や心情を読み取ったり、表現の効果について考えたりすることができる。

(2) 学習過程

	学習活動	形態	指導と支援	○評価規準 ☆努力を要する生徒への手立て	○評価方法 【観点】
1 本時の学習の内容を確認する。	一 者	・見通しをもって活動するため、学習の内容とゴール提示し、本時の流れを明確にする。			
2 前時に考えたことを確認し、3～4人グループで本文の描写や表現の効果について話し合う。	グループ	・同じ部分を選んだグループをあらかじめ決めておく。 ・グループで話したことは、自分の考えとは分けて新たにメモをしておけるようにする。		☆話したり聞いたりしながらメモを取ることが難しいようであれば、話合いへの参加を優先するよう助言する。	○話したり聞いたりしながらメモを取ることの共通点や相違点を探してみるよう助言する。
3 グループでの話し合ったことを基に、自分の考えを再構築する。	個	・大きな変化がない場合も、話しあった内容から得た気付き等を付け足すよう促す。		☆話合いのメモから、自分の考え方との共通点や相違点を探してみるよう助言する。	
4 考えたことを学級全体で共有する。	一 者	・発表を聞く際は、自分たちの話合いの結果と比較しながら聞くよう助言する。		○自分が選んだ本文の描写から、登場人物の相互関係や心情を読み取ったり、表現の効果について考えたりしている。	【思・判・表】発表、ワークシート
5 本時のまとめをする。	一 者	・次の時間の課題につながるようなまとめる。			

第1学年A組 保健体育科学習指導案

指導者 打川 淳 (T1)
神谷 忠昭 (T2)

1 単元名 武道（柔道）「柔よく剛を制す 極めろ！ 固め技マスター」

2 単元の目標

- (1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開することができるようとする。
- ア 柔道では、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの簡易な攻防をすることができるようとする。 【知識及び技能】
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようとする。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとすることなどや、禁じ手を用いないなど、健康・安全に気を配ることができるようとする。 【学びに向かう力、人間性等】

3 生徒と単元

(1) 単元について

柔道は、中学校で初めて学習する内容で武技・武術などから発生した我が国固有の文化であるため、伝統的な行動が重視され礼法や相手を尊重する精神を大切にするものである。柔道衣を着用し、畳の上で2人がお互いに組み合い、相手と激しく戦う格闘技であるため、勝敗だけではなく、相手を尊重する心を示す礼儀が重んじられる。礼に代表される伝統的な行動の仕方や考え方を理解することが自他の健康や安全に気を配ったりすることにつながる。

基本動作や基本となる技を身に付けることで、投げ技や固め技を用いて相手との攻防や勝敗を競い合う楽しさや喜びを味わうことができる。また、オリンピックでの日本選手の活躍などメディアを通して目にする機会も多く、生徒の関心は高い。

(2) 生徒について

運動をする上で配慮を要する生徒はない。柔道部所属の男子生徒が1名いるが、小学校からの経験者はいない。前単元でマット運動の回転系の運動により、受け身の感覚に近い運動経験をしている。事前アンケートによる保健体育・柔道に対する意識は次の通りであった。

【保健体育の授業が好きですか】

好き（65%） どちらかといえば好き（30%） どちらかといえば嫌い（5%） 嫌い（0%）

【柔道のイメージ】

伝統がある。礼儀正しい。精神力が高まる。心身が鍛えられる。相手を投げることができる。

面白そう。オリンピック種目である。

【楽しみなこと】

受け身。投げること。いろいろな技に挑戦すること。技をかける心理戦。相手と高めあえること。

成長できること。得意な技を身につけること。試合（相手との対戦）。

【不安なこと】

けが。痛そう。体格差。特になし。

【身に付けたいこと】

受け身。基礎。様々な投げ技。得意技。攻防の判断力。

このように未経験の運動に対して挑戦してみたいという意欲がある。ケガに対する不安が多いが、技ができるようになりたい、相手と対戦してみたいという期待感が大きい。

(3) 指導に当たって

基本動作や受け身の指導に関しては、「崩し」「体さばき」と「技のかけ」から「受け身」をまとった技能として捉え、対人的技能としてスキルアップ（準備運動）で取り上げ、技能習得を図りたい。

技の指導に関しては、ケガや痛みの不安を感じさせないように段階的な指導に留意し、固め技の習得に時間をかけ、固め技の姿勢や体さばきを用いながら、けさ固めや横四方固めの簡易な技の入り方や返し方に重点をおき、相手を抑える技能が上達するように、実態に応じて指導を工夫したい。

また、柔道は格闘的な運動であるため、相手を尊重し、助け合う態度を養い、安全にかつ公正な態度で練習や試合を進めるなど「心」と「体」の一体化を図ることができる内容と考える。独自の作法、所作については日常と関連させて理解と定着を図るために「安全・礼儀・思いやり」のキーワードを掲げ、礼法を重んじて学習を進めていくことができるよう配慮していく。

① 「なぜ」を大切にし、主体的に学ぶための手立て

本単元では、一人一人のめあてに応じた活動を十分に行うために、練習時間を十分に保障する。基本技能をウォーミングアップで行うスキルアップや決められた動きに対する約束練習、習得した技を試す場としての自由練習を取り入れ、習得した技能を使い、積極的に攻防する中で新たな課題を見付けることができるよう指導する。教師がポイントをアドバイスするだけでなく、トリオ学習や映像資料の活用を通して、技能のポイントに気付き、生徒が互いの動きを観察し、教え合いや話合いが授業の中で適切に行われていくようにしていきたい。また、振り返りの視点を具体的にして、成果や課題を明確にもつことで、次の時間への意欲喚起につなげていきたい。

② 自分の考えを表現し、他者との関わりを通して協働的に問題を解決していく手立て

活動の柱となるのは、トリオ学習を通して、取（技をかける人）と受（技を受ける人）、アドバイザーの役割を明確にし、相互の立場から気づきを伝え合い、技能を高める活動である。技能のポイントや視点を確認できるようにし、そのポイントがどうなっているのか成果や課題を伝え合ったり、具体的にどうすればよいのか自分の考えを述べたりすることで、互いのために意見を受け止める信頼関係を構築できるようしたい。また、今後の学習に結び付けるために、互いに賞賛する場面も大切にしていきたい。

5 本時の学習 (5 / 9)

- (1) ねらい
けさ固め、横四方固めの抑え方や返し方を使って簡易な攻防をすることができる。 (知識・技能)
(2) 学習過程

	学習活動	形態	T1	指導と支援	T2	○評価規準[評価方法][観点] ☆努力を要する生徒への手立て
1	あいさつをする。		○健康観察をする。	○柔道着の着方を確認する。		
2	準備運動とスキルアップを行う。	一斉	○体ほぐしの運動も取り入れて、ケガや痛さへの不安を和らげるようにする。	○間隔をとり、安全に行うことができるようになります。		
3	本時の学習課題を確認する。					
	けさ固めと横四方固めの抑え方や返し方のコツを生かして攻防するには?					
4	・抑え込んでいる状況を見て、「取」の抑え方のコツを予想して発表する。 ・トリオで「取」「受」「アドバイザー」の役割を交代しながら練習する。 ・予想を試したり、映像や示範でポイントを確認したりして練習する。	個	○取の動きを示範する。 ○前時に学習した「抑え込みの3条件」という点から考えた予想の発表を促す。 <ul style="list-style-type: none">・受がうつ伏せの時は、仰向けにします。・取の脚が受の近くにあると脚を絡まれてしまう。・隙間をつくることができれば逃げることができます。・抑え方が弱い時は、帯をつかんで体を回転させてみよう。	○受の動きを示範する。 ○前時に学習した「抑え込みの3条件」という点から考えた予想の発表を促す。 <ul style="list-style-type: none">・受がうつ伏せの時は、仰向けにします。・取の脚が受の近くにあると脚を絡まれてしまう。・隙間をつくることができれば逃げることができます。・抑え方が弱い時は、帯をつかんで体を回転させてみよう。	○つまりき（うまく抑えられない、逃れる動きができるない）への支援は生徒アドバイザーと共に使う。 <ul style="list-style-type: none">・つかむ場所や抱える体勢・「つかでいいか…」・「うつぶせになつたり相手を返したりするには…」	☆既習のポイントを再度確認しながら、他の生徒の動きの観察を促すことでメモをつける。 ○評価 けさ固め、横四方固めの抑え方や返し方のコツを生かして攻防している。 【観察・学習カード】 【知識・技能】
5	・トリオでけさ固めと横四方固めの抑え方や返し方を使った簡単な攻防を行う。 ・「アドバイザー」は「審判」の役割を務める。 ・「取」と「受」を交代しながら行う。	トリオ	○禁止技や危険な行動（ふざけ）や危険な状況（畠の隙間、衝突）を回避することを確認する。 ○相手を交代した時は、相手に対する礼を確実にできるようにする。	○つまりき（ふざけ）や危険な状況（畠の隙間、衝突）を回避することを確認する。 ○相手を交代した時は、相手に対する礼を確実にできるようにする。	トリオ	○本時の学習を振り返り、解決できたことや課題になったことを共有する。 <ul style="list-style-type: none">・振り返りにけさ固めと横四方固めとする。・つかんだコツを記入する。・解決できしたことや理解できしたこと、課題として残ったことを学習カードに記入する。
6	A:うつぶせの状態から B:仰向けの状態から C:固めた状態から		○初段→仰向けの相手を3秒抑える。 ○二段→仰向けの相手を5秒抑える。 ○三段→仰向けの相手を10秒抑える。		トリオ	・振り返りの視点とともに、学習カードに記入するように促す。 ・本時の成果を伝えることで、次時への意欲が高まるようにする。

4. 第1学年における指導と評価の計画

単元の目標	知識及び技能	次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するなども、基本動作や基本動作等を用いて構えたりすることができる。▼ア　柔道では、相手の動きに応じた基本動作や基本動作等を用いて、投げたり抑えたりすることができる。
	思考力、判断力、表現力等	武道など自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えるように攻防する。
学習の流れ	オリエンテーション・学習の進め方	武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとするなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。
時	0	オリエンテーション・学習の進め方
10	1 2 3 4	学びに向かう力、人間性等
20	5 6 7 8	健康観察・準備運動・スキルアップ 等
30	9	本時の課題確認
40	9	授業づくりのポイント
評価機会	知 技 思 感	①柔道は対人的な技能を基にした運動で、我が国固有の文化であることにについて、言ったり書き出したりしている。 ②柔道の技には名称があり、それぞれの技を身に付けるための技術的なポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ①横受け身では、体を横に向け下側の足を前方に、上側の足を後方にして相手を抑え、ことができる。 ②取は「抑え込みの用件」を満たして相手を投げ、受けは受け身をとることができます。 ③取は膝車、体落とし等をかけて投げ、受けは受け身をとすることができます。 ①提示された動きのポイントでつまづきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 ③練習の場面で、仲間の伝統的な所作等のよい取組を見つけ、理由を添えて他者に伝えている。 ①相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとしている。
単元の評価規準	態度	評価方法

第2学年A組 外国語科学習指導案

JTE1 押切 裕美子

JTE2 三浦 亮

A L T Megan Chamberlain

1 単元名 Unit 4 Homestay in the United States

2 単元の目標

- (1) 助動詞や動名詞の用法を理解し、これらを用いて、しなければならないことやアドバイスについて、伝え合うことができる。 【知識及び技能】
- (2) 自分のスケジュールや生活習慣、文化の違いについて、考えを伝えることができる。 【思考力、判断力、表現力等】
- (3) お互いをよりよく知るために、生活習慣や文化の違いについて、質問をしたり自分の考えを伝えたりしようとしている。 【学びに向かう力、人間性等】

3 生徒と単元

(1) 生徒について

学級活動や学校行事などの様々な場面で、男女協力して話し合ったり活動したりすることができる生徒たちである。英語学習においては、海外の生活や文化に対して興味をもってALTに質問をしたり、ペアやグループでオリジナルスキットを作る際に、よりユニークなものにしようとストーリーを考え、発表しようしたりするなど、主体的に学習に取り組む場面がみられる。一方で、学力差に大きくばらつきがあり、加えて、入学当初に比べると、学習意欲の全体的な低下を感じられる。また、1学期に行った「清陵生の学びの姿アンケート」では、「授業では、『なぜ?』を大事にして、疑問を見つけたら積極的に質問することができた。」と感じている生徒の割合が他学年と比較すると低かった。

今年度から、学年が上がるにつれて学習の難易度が増していくことを考慮して、文法の習得においては、習熟度別に2コースに分かれて行うようにしている。習熟度別に学習することで、基礎コースは分からぬところを積極的に質問したり、間違いを恐れずに発表しようしたりする態度が、発展コースでは、場面に応じてたくさんの表現を活用しようとする態度が、以前よりも多く見られるようになってきた。疑問を感じられるような課題設定や、疑問を積極的な質問へとつなげられるような場面設定の工夫を、今後も行っていく。

(2) 単元について

本単元は、アメリカでホームステイをする中学生の体験を通して、習慣や文化の異なる環境での生活やマナー、コミュニケーションの難しさや大切さについて考えさせることのできる題材である。本文では、日米の文化や生活習慣の違いについてだけでなく、ステイ中に感じられた問題点についても触れられているため、生徒は当事者意識をもってアドバイスを考えたり、意見をもつたりすることができると考えられる。本単元の学習を通して、将来海外で滞在をすることを想定したり、生活習慣や文化の異なる人と関わる場面をイメージしたりして、伝える相手の立場を尊重しな

がら考えを伝えようとする意識を高めさせたい。

言語材料としては、have [has] to と must、動名詞を用いた文が扱われている。これまで学んだ助動詞に、新たに have [has] to と must を加えたり、動名詞を用いて動作や行動を名詞として扱ったりすることで、自分のスケジュールや学校生活、他者に対するアドバイスについての表現の幅を豊かにすることができると思われる。

(3) 指導にあたって

本時では、日本とアメリカの学校生活について、助動詞を適切に使って表現できるようにする。前時までに、自分のスケジュールやアメリカの生活習慣について言い表す活動を重ね、助動詞を用いることで表現の幅が広がることを実感できるよう、場面設定を工夫する。その際、既習の助動詞も含めたカードを提示して、どの助動詞を使えば自分が伝えたいことが適切に表現できるかを考え、選択することで助動詞の用法に習熟させたい。本時では、ALT が体験した学校生活の様子を写真やイラストを示しながら紹介し、興味深い事実や情報を与える。前時までにアメリカの生活習慣について学んできたことに加え、さらに新しい事実や情報を知ることで、日本とアメリカの生活習慣の違いに対する考えが広がることが期待できる。生徒が抱いた印象や感情を、自分の考えとして発表するまでの過程を大切にしたいと考えている。

① 「なぜ」を大事にして、主体的に学ぶための手立て

本単元では、本文で、ホームステイをしている中学生の体験談としてアメリカの文化や習慣が扱われているため、生徒にも「自分が同じ状況なら」という視点をもたせるようにする。加えて、同じアメリカ出身の ALT に、自身の体験談やアメリカでの生活習慣の紹介してもらうことで、生徒の興味を引き付ける。本時では、ALT が実際に通った中学校について、特に、日本と全く異なっていたり意外と思われたりするような事実を精選して紹介することで、驚きや戸惑いといった生徒の素直な感情を引き出し、自分の考えを伝えたいという意欲につなげる。

② 自分の考えを表現し、他者との関わりを通して協働的に問題を解決していく手立て

本時では、アメリカの学校生活の中でも「制服」、「昼食」、「掃除」など、生徒の関心が高いと思われる話題を取り上げて紹介する。同じ話題について、自分たちの学校ではどうであるかについて仲間と考えを共有して、自分が伝えたいことを選択し、整理しながら意見をまとめられるようにしたい。生徒は学校生活についての複数の話題の中から、特に自分が表現したいものを一つ選択することで主体的に表現活動に取り組むことができると考える。また、グループ発表や全体での発表を経て、仲間を関わり合いながら、日本とアメリカの文化や習慣の違いに対して様々な考え方や多様な表現の仕方があることを学ぶことができるのでないかと考える。

4 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと(発表)	助動詞、動名詞の形・意味・用法を理解して、自分のスケジュールや日本とアメリカの学校生活について、自分の意見を加えて話す技能を身に付けている。	自分の生活や生活習慣の違いについて、自分の意見を知つてもらうために、しなければならないことや経験、習慣やマナーについて話している。	自分の生活や生活習慣の違いについて、自分の意見を知つてもらうために、しなければならないことや経験、習慣やマナーについて話そうとしている。

5 単元の全体計画 (総時数 9 時間)

時	ねらい	学習活動	評価規準【観点】【評価方法】
1 ・ 2	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームステイについて、話されていることや書かれている内容について、どんなことをする必要があるのか、またはないのかを理解することができます。 ・「しなければならないこと」や「しなくともよいこと」について、書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームステイについて話されていることや書かれていることについて概要を捉え、アメリカの生活に対して関心をもつ。 ・自分のスケジュールについて、助動詞などを用いて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームステイについて、話されていることや書かれている内容について、要点を捉えている。 ・「have to + 動詞の原形」の形・意味・用法を理解し、自分が「しなければならないこと」や「しなくともよいこと」について書いている。 <p>【知・技】 [観察、ノート、振り返りカード]</p>
3 ・ 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームステイについて、しなければならないことやしてはいけないことを理解することができます。 ・アメリカの生活習慣について、話されていることを理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームステイ先での会話から、しなければならないことやしてはいけないことを理解し、書いてまとめる。 ・アメリカの生活習慣について聞き、質問をしたり意見を伝えたりして理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・助動詞 must、must not の文の形・意味・用法を理解している。 ・海外の生活習慣について書かれていることや話されていることを理解し、書いてまとめている。 <p>【知・技】 [観察、ノート、振り返りカード]</p>
5 (本時)	・日本とアメリカの学校生活の違いについて、助動詞や既習の表現を用いて意見をまとめ、表現することができる。	・日本とアメリカの学校生活の違いについて、自分の意見をまとめ、伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とアメリカの学校生活を比較し、助動詞や既習の表現を用いて意見をまとめ、表現している。【思・判・表】 <p>[発表、ワークシート、振り返りカード]</p>
6 ・ 7	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームステイではどのような問題があるかを知るために、事実や当事者の気持ちを整理して概要を捉えることができる。 ・ホームステイ先での問題について、アドバイスを書いてまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームステイの感想を読んで、慎と奈美が感じる問題を理解する。 ・慎や奈美が感じている問題に対して、アドバイスを考えて書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的語や代名詞としての動名詞を含む文の形・意味・用法を理解している。 ・ホームステイ先での問題について、アドバイスを書いてまとめている。 <p>【思・判・表】</p> <p>[発表、ワークシート、振り返りカード]</p>
8 ・ 9	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とアメリカの生活習慣や文化の違いを知り、事実を整理して体験談の概要を捉え、大切なことをまとめることができます。 ・ホームステイで体験したいことや学びたいことについて、まとまりのある英文を用いて話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とアメリカ体験談を読んで概要を捉え、ホームステイをする上で大切なことを書いてまとめる。 ・自分がホームステイに行くとしたら、どんなことを学びたいかについて話す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語としての動名詞を含む文の形・意味・用法を理解している。 ・ホームステイで体験したいことや学びたいことについて、まとまりのある英文を用いて話している。 <p>【思・判・表】</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>[パフォーマンステスト、ノート、振り返りカード]</p>

6 本時の指導計画（本時 5／9）

- (1) ねらい
- ・日本とアメリカの学校生活の違いについて、助動詞や既習の表現を用いて、自分の意見をまとめ、表現することができる。

(2) 学習過程

学習活動	形態	JTE1 (T1)	JTE2 (T2)	ALT (T3)	評価 [評価方法] 【観点】
1. Greeting 2. Introduction アメリカの学校生活について聞く	一斉 一斉	・明るくあいさつをして、英語を話しやすい雰囲気づくりをする。 ・ALTが話したことについて概要を確認する。	☆助動詞カードやキーワードを整理して、ホワイトボードにまとめる。	・アメリカの学校生活について、生徒の関心を引くように写真等を活用する。	日本とアメリカの学校生活の違いについて、自分の意見を表現する。【発表・ワークシート・振り返りカード】
3. Today's Goal Tell your opinion about the differences between Seiryō and an American school.	一斉	(1) 清陵の学校生活について情報を探して話し合う (2) 話したい学校生活の話題を選んで、意見をワークシートにメモする	・本時で使わせたい助動詞の用法を確認し、生徒からの情報を拾い上げる。 ・日本とアメリカの学校生活の違いについて、場面や理由を意識して述べるように指示する。	・生徒に対して、清陵の学校生活について、簡単な質問をして、多くのアイデアが共有できるよう促す。	日本とアメリカの学校生活の違いについて、自分の意見を表現する。【思考・判断・表現】
(1) 清陵の学校生活について情報を探して話し合う (2) 話したい学校生活の話題を選んで、意見をワークシートにメモする	コース別 グループ	・基礎コース ・必要に応じて活用できるように、役立つ表現を準備しておく。 ・グループで発表することによって、全員に発表の機会を保障する。	・自分で語句を選択して表現で自らノートやシートの活用を促す。 ・グループで発表することによって、全員に発表の機会を保障する。	・表現についてのアドバイスやヒントを与える。	・表現についてのアドバイスやヒントを与える。【発展コース】
(3) まとめた意見を発表する 4. Reflection 5. Greeting	一斉 個 一斉	・他の生徒の表現にヒントを与えてもらう。 ・共有させたい表現を取り上げ ・活動の振り返りをさせ、次時の学習への意欲を喚起する。 ・次時の授業に興味をもたせるように、アメリカの高校生活についての話題を提示する。	・助動詞を適切に用いているか ・日本とアメリカの違いについて、適切にまとめている。 ・生徒の表現を紹介する。		

令和6年度 教育委員会指導主事等の学校訪問 実施要項

横手清陵学院高等学校 教務部

1 訪問日 令和6年10月29日(火) ※特別時間割

2 訪問者 高校教育課 指導主事 丹 啓記(農業)
 高校教育課 指導主事 後藤 直地(理科)
 秋田西高等学校 教育専門監 加藤 昌宏(地理歴史)
 南教育事務所 主任指導主事 赤川 渉

3 日程 (SUなしで1~5校時は45分授業で行い、6校時のみ50分授業となります。)

内 容	時 間	備 考
	8:30~8:40	(S H R)
	8:45~9:30	(1校時)
	9:40~10:25	(2校時)
校長面談	10:35~11:20	(3校時) 於 校 長 室
諸表簿閲覧	11:30~12:15	(4校時) 於 会 議 室
	12:15~12:55	(中) 給食・清掃 (高) 昼食・清掃
	12:55~13:15	
授業参観	13:20~14:05	(5校時)
	14:05~14:15	(高) S H R 研究授業以外のクラスは放課 ※中学生は6校時も授業を行う。
研究授業	14:25~15:15	※別表
	15:20~15:30	(中) 帰りの会 放課後は学校祭活動を行う。 ※高校生は研究授業のクラスを放課する。
授業研究会 ※	15:30~16:10	グループディスカッションによる 分科会形式で実施
全体会 ※	16:15~16:45	於 会 議 室 ①校長あいさつ ②授業研究会の概況説明と報告 ③指導主事の先生の指導助言 ④校長あいさつ (記録: 小松厚)

※授業研究会(教科毎の授業者を含んだ参観教員による分科会)

※全体会(高校全職員で研究授業等に対しての指導主事の指導・助言をいただく)

※別表 高等学校6校時 研究授業

クラス	科目(教科)	授業者	使用教室	授業研究会会場
2年グローバル文系	日本史探究(地歴)	柴田 明美	21組教室	22組教室
3年グローバル理系	物理(理科)	釜田 博一	物理実習室	11組教室
1年3組	製図(工業)	松井 泰紀	①3D-CAD室 ②製図室	共通実習室A

※指導助言者

地歴	秋田西高等学校	教育専門監	加藤	昌宏
理科	高校教育課	指導主事	後藤	直地
工業	高校教育課	指導主事	丹	啓記

4 県教委重点指導事項

- (1) 組織で取り組む魅力ある授業づくりの推進
 - ・ねらいに基づいた授業構成
 - ・生徒の思考を深める授業展開
 - ・評価と検証を生かした授業改善
- (2) 「こころ 姿 振る舞い さわやか高校生運動」の推進による生徒指導の充実
 - ・さわやかな整容
 - ・さわやかな生活態度
 - ・さわやかな学習環境

5 本校における本年度の重点目標

「主体性 探究力 人間力の育成による 高い志の実現」

【目標達成のための基本方針】

- (1) 目指す生徒像・学校像を教職員及び生徒が明確に認識し、目標を共有する。
- (2) 「主体性の醸成」を第一に意識して推進し、それをベースとして他の力の育成を進める。
- (3) すべての教育活動において、ICTの活用を模索し、目標達成を促進する。

6 授業改善重点事項

「ICTを活用し、自ら学び続ける力を高める授業実践の取り組み」

7 授業改善重点事項

- 1 授業の目標または学習課題を授業開始時に明確に視覚的に示すと共に、行う学習活動の評価の観点を示して授業を行う。
- 2 授業後などに生徒がICT機器で自己評価を行い、授業者はその結果を受けて、次の授業を改善していくPDCAサイクルの構築を目指す。

8 授業参観の視点

- 1 「授業の目標または学習課題」と「学習活動の評価の観点」を明示しているか。
- 2 「評価の観点」に沿った自己評価をさせているか。
- 3 「評価」までを一つの授業パッケージと捉えて授業をデザインし、尻切れとんぼ的授業にならないよう授業を組み立てているか。

9 授業研修会

次第

- ・あいさつ（指導主事の紹介会） 15：30～15：35
- ・研究討議 15：35～16：00
- ・指導主事からの指導助言 16：00～16：10

10 閲覧表簿

校務支援システムによる閲覧表簿（9/24～9/30の期間）

- (1) 生徒指導要録・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・クラス担任
- (2) 出席簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・教科担任、クラス担任
- 訪問時閲覧表簿
 - (3) 教科・科目の年間指導計画、評価計画と実施記録簿（進度表）・・・・・・・教務部
 - (4) 総合的な探究の時間全体計画と年間指導計画・・・・・・・探究・国際部
 - (5) 校内研修計画と実践記録簿・・・・・・・研究・研修部
 - (6) 開設している「学校設定教科・科目」の年間指導計画及び使用テキスト・・・教科主任
 - (7) 中堅教諭等資質向上研修記録簿・・・・・・・沼倉健
 - (8) 実践的指導力習得年間研修実施計画書・・・・・・・藤田悠太、小野孝之
 - (9) ホームルーム活動年間指導計画と実施記録簿・・・・・・・学年主任
 - (10) 各教科における直近の定期考査問題（2学期中間まで）・・・・・・・教務部

地歴公民科「日本史探究」学習指導案

日 時 令和6年10月29日(火)
場 所 2年1組教室
対 象 2年普通科13名(男子7名・女子6名)
指導者 教諭 柴田明美
教科書 「日本史探究 詳説日本史」(山川出版社)

1 単元(題材)名 第1部 第3章 律令国家の形成 「4 律令国家の変容」

2 単元(題材)の目標と評価規準

(目標)

平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察させる。また、東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞觀文化を理解させる。

(評価規準)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
東アジアとの関係の変化や社会の変化と文化との関係などに着目して、平安遷都前後の諸政策や平安初期の文化の変容を理解している。	蝦夷や東アジア世界との関係の変化を踏まえて、中央における藤原北家の台頭、地方における土地支配体制の動搖について考察し、根拠を示して表現している。	東アジアとの関係の変化や社会の変化を考察することを通じて、文化とのつながりを主体的に追究しようとしている。

3 生徒の実態

普通科グローバル文系・地域文化コースの中でさらに日本史を選択している生徒たちではあるが、日本史に関する興味・関心は必ずしも高い生徒ばかりではない。毎時間の目標に関する生徒自身の評価は、概ね求めている基準に達しているが、考察しまとめることを苦手とする生徒もいる。

4 授業改善重点事項

指導と評価を一体化させた授業実践の取り組み(ICTを活用した評価の確立)

授業の初めに、本時の目標と問い合わせに関する予想をGoogleフォームに記入させる。前時にグループで作成したGoogleスライドをもとに発表させる。さらに別資料をグループ毎に読み込み、意見交換しながら自らの考えを深める。最後に本日の問い合わせのまとめを、自己の評価シート(授業開始時に記入したGoogleフォーム)に追加して記入させる。

5 単元の指導と評価の計画(全5時間)

時	授業内容	学習活動における具体的な評価規準	評価方法
1	平安遷都と蝦夷の戦い	光仁・桓武朝における政治改革の中で遷都事業の意義を説明できる。	・Googleフォーム ・小テスト
1	古代東北の城柵	発表に向けてのスライドの作成をグループで協力して作成できる。	・レポート作成(スライド)
1	古代東北の城柵 (本時3/5)	奈良時代から平安初期にいたる東北地方への支配領域の拡大を説明できる。	・Googleフォーム ・スライド発表 ・観察・小テスト
1	平安時代初期の政治改革 地方と貴族社会の変容	国家による新たな財源確保の方策が律令国家を変質させる一因になったことを説明できる。	・Googleフォーム ・観察 ・小テスト
1	唐風文化と平安仏教 密教藝術 平安初期の私の問い合わせ	弘仁・貞觀文化の特色を理解し、今までの文化との違いについて説明できる。	・Googleフォーム ・観察・小テスト ・レポート

6 本時の計画

(1) 本時のねらい

古代東北の城柵について、まとめたことを発表し、それぞれの城柵の特色を理解するとともに、何のためにどのように設置されていったのか考察をまとめることができる。

(2) 学習過程

	学習活動<学習形態>	指導上の留意点	評価の観点
導入 (5分)	<p><全体></p> <ul style="list-style-type: none"> ・飛鳥・奈良時代の政策を振り返る。 ・学習内容・評価の観点の確認を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価シートに、本時の学習内容・評価の観点と問い合わせの予想を記入させる。 	
展開Ⅰ (15分)	<p>問い合わせ：古代東北の城柵にはどのような特色があるのだろうか。</p> <p>・スライド発表 <全体・グループ毎に発表></p> <p>① 多賀城 ② 秋田城 ③ 胆沢城 ④ 払田柵</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共通部分とそれぞれの特色について発表や質問を通して考察させる。 ・教室の黒板と電子黒板を併用して視覚的にも特徴を理解できるように発表させる。 	
展開Ⅱ (25分)	<p>問い合わせ：古代朝廷は武力によってのみ東北地方を制圧したのか。</p> <p>・資料の読み込み <個→4グループ></p> <p>A 阿倍比羅夫 B 伊治皆麻呂 C 坂上田村麻呂・阿亘流為 D 文室綿麻呂</p> <p>・資料の検討<3グループ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの資料について、意見交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見をグループで共有し合い、自分たちのグループとしての考えをまとめさせる。 ・それぞれ異なる4種類の資料について発表し合い、朝廷と蝦夷の攻防について、展開Ⅰの発表も生かしながら、問い合わせを考察させる。 	<p>【思】</p> <p>古代朝廷は、何のために、どのように城柵を設置していったのか、話し合いを通して、考察を深めている。</p> <p>…発表・意見交換・まとめのシート記入から評価</p>
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業の問い合わせについて各自でまとめを行う。 ・学習の振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価シートに、自分の考えについて入力させる。 ・まとめに苦慮している人には、手立てとしてキーワードを与える。 	

観点の略称【知】知識・技能【思】思考・判断・表現【態】主体的に学習に取り組む態度

理科「物理」学習指導案

日 時 令和6年10月29日(火)
場 所 物理実験室
対 象 3年1組 12名(男子7名・女子5名)
指導者 教諭 釜田 博一
教科書 「物理」(東京書籍)

1 単元(題材)名
3編 電気と磁気 1章 電場と電位 5節 コンデンサー

2 単元(題材)の目標と評価規準

(目標)

- (1)物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようする。
- (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3)物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

(評価規準)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
物理学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。	物理的な事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもつたり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

3 生徒の実態

3年生グローバル理型、12名の授業である。物理に対する興味・関心が高い生徒が多く、主体的に学習に取り組むことができる。ICTの利用スキルも高く、授業や実験などにおいても問題なく活用できている。しかし、自分で図やグラフを作成するなど、アナログな処理を苦手とする生徒が多い。したがって、実験データの処理においては、ICTを利用するだけではなく、自分でグラフを作っていくプロセスも大切にすることで、コンデンサーを含む回路の現象について深い理解を目指したい。

4 授業改善重点事項

ICTを活用し、自ら学び続ける力を高める授業実践の取り組み。

授業の開始時に、学習目標と評価基準を確認させる。学習目標については、毎時間の振り返りフォームに入力させる。

実験で使用するワークシートについては、印刷したものを主に使用するが、一部スプレッドシートで作成し全員で共有することで、他の班の進捗状況を確認できるようにする。また、実験の各段階毎の評価基準については、クラスルームで評価基準と自己評価を入力させるフォームを配信し、適宜自己評価を入力させる。

授業の最後に、毎時間の振り返りフォームに学習内容のまとめを入力させ、自己評価を行わせる。また、入力内容は、個人の学習状況の把握と今後の授業改善を行うために活用する。

5 単元の指導と評価の計画（全5時間）

時	授業内容	学習活動における具体的な評価規準	評価方法
1	コンデンサーの電気容量が極板面積に比例し、極板間距離に反比例することを理解する。	コンデンサーの電気容量が極板面積に比例し、極板間距離に反比例することを理解している。 【知】	行動観察 ノート 振り返りシート
2	誘電体のはたらきについて理解し、コンデンサーに蓄えられるエネルギーを導出する。	誘電体のはたらきについて理解している。 静電エネルギーを導出している。 【知】	行動観察 ノート 振り返りシート
3～4	コンデンサーの並列接続と直列接続における合成容量を導出する。	様々な接続方法における合成容量を導出している。 【思】	行動観察 ノート 振り返りシート
5 (本時)	大容量コンデンサーの電気容量の測定実験	大容量コンデンサーの電気容量を測定し、分析する技能を身に付けている。 【知】【思】	行動観察 ワークシート スプレッドシート 振り返りシート

6 本時の計画

(1) 本時のねらい

大容量コンデンサーの電気容量測定実験を通して、コンデンサーを含む回路の現象について興味を持ち、回路を流れる電気量や電位差と関連付けて理解を深めることができる。

(2) 学習過程

	学習活動	指導上の留意事項	評価の観点
導入 5分	・コンデンサーの基本的な仕組みについて復習 ・実験の目的と流れを説明	・安全注意事項の確認を行う 本時の目標： コンデンサーの電気容量を充電曲線から求めることができる	
展開 40分	【実験】 ・実験装置の準備 ・電気容量を測定する手順の説明 ・実験を行いデータを測定 【データ解析】 ・測定したデータを整理 ・充電曲線を作図し、電気容量を求める ・実験結果について考察	・実験回路を正しく組み立てられるよう支援する ・班員で役割分担をし、協力してデータ測定を行えるよう支援する ・充電曲線のグラフから、電気容量を求める手続きを正しく行えるよう支援する	・実験回路を正しく組み立てることができる【思】 ・実験データを取得できている【知】 ・充電曲線を作図することができる【知】 ・電気容量を求めることができる【思】
まとめ 5分	・実験全体の振り返りをフォームに入力	・本時で学んだことを言葉にしてまとめさせ、自己評価をさせる	・学習内容を適切な表現でまとめる能够性【思】

観点の略称【知】知識・技能【思】思考・判断・表現【態】主体的に学習に取り組む態度
評価方法

- ・行動観察：授業中に机間巡回等を通じて捉えた生徒の学習への取組の様子、発言やつぶやき内容、ノートの記述内容に基づいて評価する。
- ・ノート：授業後に生徒のノートやワークシート、レポート等を回収し、その記述の内容について評価する。
- ・小テスト：授業中に小テストを実施して回収し、その結果に基づいて評価する。

工業科「製図」学習指導案

日 時 令和6年10月29日(火) 6校時
場 所 3D-CAD実習室
対 象 1年 総合技術科 23名(男子21名・女子2名)
指導者 教諭 松井 泰紀
教科書 「製図」(実教出版)

1 単元(題材)名 図面のつくり方

2 単元(題材)の目標と評価規準

(目標)

製図に関する日本産業規格および工業の各専門分野の製図に関する知識と技術を習得する。品物の形状情報を正しく理解し、第三角法による配置を構想し、わかりやすい図面作成することができる。

(評価規準) 知識・技術、思考・表現・判断、主体的に学習に取り組む態度

知識・技術	思考・表現・判断	主体的に学習に取り組む態度
基本的な平面図形の書き方について、品物の形を表すのに必要な図形について理解し、投影図の作成順序について考えることができる。	品物の形状を平面で表す方法として、第三角法による投影法を考察する能力を身についている。	立体を平面で表す方法について関心をもち、意欲的に学習に取り組もうとする態度を身につけている。

3 生徒の実態

これまでの学習では図面作成の前段階として、立体を平面(二次元)で表現する練習、またはその逆の手順について、個々の習熟度にあつた課題を繰り返し行い、与えられた課題を徐々に解決できるようになってきている。1年次の数少ない専門科目のひとつで、工業の基盤となる科目であるという認識のもと、集中して取り組む生徒が多い。

4 教科の研究テーマとICT活用

3次元CADソフト(Solidworks)にて作成したモデリング教材を使用し、パソコンの画面やタブレット画面にて、あらゆる角度からの物体把握(3D web viewer)を通して、図面情報を確認しながら作業を進める。また、QRコードも付随させることで、あらゆる場所での教材として、スマートフォンなどで手軽に活用する。

授業の振り返りについて、タブレットを用いてのGoogleフォームによる入力および集計にて確認する。

5 単元の指導と評価の計画(全15時間)

時	授業内容	学習活動における具体的な評価規準	評価方法
1~10	投影法の練習①	基礎的な平面図形のかきかたを理解しているか。	問題集【知・思】 小テスト【知・思】
11~15 (本時11)	投影法の練習②	投影図を描く際、品物の形を表すのに必要な図形について理解し、与えられた課題の投影図作成順序について考えることができるか。	観察(本時)【主】 練習課題(本時) 【知・思】 課題図面【知・思】

6 本時の計画

(1) 本時のねらい

- ・与えられた等角図の課題に対して、モデリング教材を3D-CADソフトもしくはタブレットアプリを操作し、画面上で形状把握を確実に行うことで投影図を導き課題を解決することができる。
- ・互いに操作法や物体の方向などについて話し合い、共有し、課題を解決することができる。

(2) 学習過程

	学習活動	指導上の留意事項	評価の観点
導入 10 分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習事項の確認や、評価方法を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製図の心構えを踏まえ、学習意欲を喚起させる。 	
本時の目標：仲間と協力し合い、3D-CAD操作を活用して正しい図面作成をする			
展開 35 分	<ul style="list-style-type: none"> ・投影法の構成を再確認する ・3D-CADソフトの基本操作を確認する。 ・例題を解く。 ・確認プリントI 課題を解く。 (発表者：プロジェクトA) ・断面図示の構成を確認する ・3D-CADソフトの断面操作を確認する。 ・確認プリントII 課題を解く。 (発表者：プロジェクトB) ・タブレット用アプリによる操作法を確認する。 ・QRコードによる操作法を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・投影要素を押さえる。 ・画面で操作しながら用語や操作法を押さえる。 ・はじめは、ソフトを使用せず解いてみる。 ・【机間指導】 ポイントを押さえて発表する。 ・断面表示法の役割を押さえる。 ・はじめは、ソフトを使用せず解いてみる。 ・【机間指導】 ポイントを押さえて発表する。 ・画面で操作しながら用語や操作法を押さえる。 ・場面に応じた取り込み方法を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・CAD、タブレット操作や形状構成について、仲間と協力し作業できているか。【主】 ・基準面、配置関係、かくれ線、ハッチング表示は適当であるか。【知】
まとめ 5 分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製図要素「正しく、明りょうに、迅速に」について振り返る。 	

10月29日 指導主事訪問（2回目） 全体会記録

1 校長挨拶（紹介）

2 授業研究会の概況説明と報告

3 今回のテーマについて（中村）

・授業参観の視点については次の三点である。1つ目は「授業の目標または学習課題」と「学習活動の評価の観点」を明示しているか。2つ目は「評価の観点」に沿った自己評価をさせているか。3つ目は「評価」までを一つの授業パッケージと捉えて授業をデザインし、尻切れどんぼ的授業にならないように授業を組み立てているか。またICTによる自己評価も授業改善の重点事項として取り組んできた。この後各教科から分科会の報告をしてもらいます。

4 分科会報告

【地歴】（佐藤寿）

- ・生徒が予想以上にスライド作成に取組んでいた、後半部まで進めなかつたが、全体的に生徒のグループ活動が大変意欲的だった。
- ・目標については本時の内容を絞ってさらに時間を有効に活用できるのではないか。

（指導助言）

- ・授業態度がすばらしかつた。ほめてほしい。教師側のファシリテーション力。どうしても説明が多くなってしまいがち。生徒にどこまで求めていくのか。自己評価をBに持つて行けるようにサポートしてほしい。

【理科】（入江）

- ・コンデンサ分野。授業の初めに学習課題をfoamに入力させた。実験グラフ化。電気容量を算出。デジタルでやることも可能だったが、グラフの作成能力を高めるために手書きにした。計算に用いるという工夫。最後にタブレットに自己評価をさせていた。
- ・協議では、評価のパッケージ、授業のデザインよくされている。組み立てに関しては実験の手順が滞っている班にはどう声掛け？タイミングを指導案に書いてもよかつた。声かけを丁寧にしていたので、生徒が興味をもって取り組んでいた。
- ・評価の観点をプリントでClassroomに配信していた。そのルーブリックを基準にできるように工夫されていた。

（指導助言）

- ・課題をfoamに蓄積することで生徒が自らの変容に気がつくのではないか。自己評価はあくまで生徒の評価なので、授業中に教師が生徒を評価する場面が必要。自己評価は生徒の主体的な姿勢を評価するには十分有効なものである。指導案作成について指導助言をいただいた。

【工業】（向川）

- ・授業者から図面の作り方について説明。基本的な部分の三次元を平面目標とする。特に三次元の立体をイメージするのが苦手な生徒が増えている。3DCADで二次元の作図ができるようになることを課題。二つの課題に取り組んだがをしたが時間が押した。最後はQRコードから自宅でタブレットで取り組めるような課題を準備。家庭でも学習できるような工夫をされていた。
- ・協議会では板書で目標を書き、評価の観点を示していたのでによかつたという意見。
- ・自己評価がされているか。二つの課題。プリントを回収するまでいかなかつたので今後について

（質問）

- ・3つめの授業のパッケージについて。5分ほど授業が押していたがセルフチェックシートで行った。アンケートの内容を学校+αの内容が入っているか、それをどうしていけばよいか。今回は23名単独の先生での授業だったが、TTだと時間内にうまくできるのではないか。3観点を示していたが、観点を絞ってのよかつたという意見があった。

(指導助言)

- ・「自ら学ぶ力につけるには」どうするか。丁寧に説明されていた。手書き PC の両方を使って。評価の観点について 3 つにこだわらず一つに絞ってもよいのではないか。記述覧をある程度予想するような作り方をしてもよいのではないか。

5 指導助言

(後藤先生)

- ・学習評価について学校の教育活動に対してを評価

- 1 生徒が自らの学習をふりかえって
- 2 教師が指導改善を図るため。

どちらもこれからもの。今日の研究授業では生徒の自己評価を蓄積していた。過去の学習状況を積み上げていける。他の学校にも紹介したい。本校 21 世紀を主体的に生き抜く授業が行われていた。

現在の時代は未来の予測が困難に。授業の中で生徒が考え方行動する場面を多く作って。そのような主体性が身についたのか。先生たちの授業改善を進めてもらいたい。

新学習指導要領での観点別学習評価では「主体的から」に悩んでいる方も多いのではないか。自分自身の意志でなので、粘り強く学習を調整しようとする態度で評価する。

主体的に学習に取り組むには、知識および技能思考力をつける授業が行われないと、生徒が自己評価ができない。例えば評価のふりかえりシート「○○について考察する上で、これまで学習した内容やどう課題を解決したか」「授業を通して生じた新たな疑問はなに」などを設定する。

生徒がどのような記述があれば A B C になるか。考えてほしい。各教科で参考資料の事例を参考にしてほしい。

「主体」授業中、挙手発言、提出物の評価とは明らかに異なる。学習の調整が適切に行われていれば、成果が知識の習得や思考力などの工場にも現れる。成果が現れないなら教師の再調整が必要になる。学校が目指す人材を育てていけるよう、お願ひします。

(丹先生)

- ・一人一人丁寧に指導されている
 - ・授業改善の重点事項授業参観のポイントに落とし込んでわかりやすく決めていただいた。
 - ・やったか検証しやすく設定していただいた。分科会の報告でかなり出たと思われる。
 - ・一つ大事なのは指導と評価と一体化では、先生が「生徒が達成すべき目標を明確に持つ」これがないと成り立たない。
 - ・それに基づいて、各教科の報告にもあったように今後も継続していただきたい。
- 二つ目に探究活動に力を入れていたと思います。自ら学び続ける力をこれからも生かしていただきたい。人が自ら学び続けるには、理由、問い合わせられられるか大切にしてもらいたい。
- ・生徒指導について「生徒指導提要」が改善された。自己指導能力の育成に重点が置かれていたが。安心、安全な風土の養成が盛り込まれた。本校の授業参観で生徒が授業中に発言する様子が見られた。授業中の発言など失敗を恐れずチャレンジできる雰囲気を。ほとんどの授業が一方的な説明にならず生徒の状況を把握して、賞賛や励ましが見られた。自己決定の課題では調べたりする時間が十分にあった。生徒指導を評価の観点からも見直して、実現してもらいたい。来て楽しかった。

6 お礼のことば（校長）

貴重な指導助言ありがとうございました。生徒指導の基本は「生徒が安心・安全で学校生活を送れるように」すること。そのためには「生徒にとっていい授業、有意義な授業」観点別について丁寧な指導をいただきました。

学習評価は生徒のためでも先生のためもある。これまでの我々の評価はテストによって「過去のこと」を評価していたが、今これからは変わっているということを再度実感して学習指導、学習評価につなげていきたいと思います。本日はありがとうございました。

総合技術科 教諭 藤田 悠太

1 目的

工業教員の資質能力の向上を目指し、日々進歩する工業技術を視野に入れた実践的指導力と幅広い知見を習得するとともに、全県の建築系職員の交流を深める。

2 開催日

令和6年12月4日(水)

10:00	横手清陵学院集合
10:15	横手清陵学院出発
10:30~	Ao-na 施設見学
11:45~	昼食・時間調整
14:00~	新体育館現場見学
15:00	新体育館出発
15:30	横手清陵学院到着・解散

3 場所

- ①横手市生涯学習館「Ao-na（あおーな）」
〒013-0036 横手市駅前町2番12号
- ②横手体育館建設工事現場
〒013-0064 横手市赤坂字館ノ下48番2号
他19筆（横手市旧雪捨場）

4 参加者（敬称略）

能代科学技術高校	外川昌澄
能代科学技術高校	小松正弘
大館桂桜高校	加藤 彰
秋田工業高校	菅原伸一
由利工業高校	渡邊 真
大曲工業高校	大友 仁
横手清陵学院高校	藤田悠太

5 研修内容

建築物及び建設工事現場の視察

- ・建築物の見学、施設説明
- ・公共施設のこれからの方
- ・公共施設工事の進め方
- ・地域資源を生かしたキャリア教育

6 実施報告

6-1 横手市生涯学習館「Ao-na」

本館は、2018（平成30）年の横手駅東口第二地区第一種市街地再開発事業の一環として、中高生のワークショップや市民アンケートによる要望調査を行いながら、使われやすい施設を目指し整備された。9月14日にオープンし、11月12日には早くも来館者10万人を達成した。

生涯学習機能と図書館機能を持ち、1階のティーンズエリアとスタジオにはネーミングライツを導入していることや、内部空間のインテリアデザインに横手ジュニア・リーダーの意見を多く取り入れていることが特徴的だった。



図1 スタジオ（1F）

6-2 横手体育館建設工事現場

本体育館の建設工事は佐藤工業と地元企業のJVで行われており、地下水位が高く、想定しづらい地層で基礎工事に難儀したことだった。本工事もBIMの導入や360°カメラの設置などICT化が進んでいる印象を受けたとともに、高校現場へのBIMの導入の必要性も痛感した。



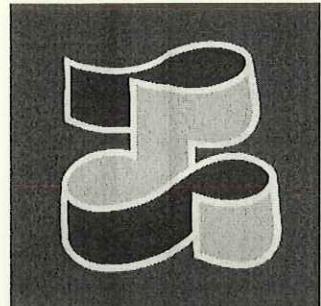
図2 朝礼広場（デジタルサイネージ）

第13回全国工業教育指導者養成講習会に参加して

総合技術科 教諭 小松 直鎮

1 はじめに

本講習会は、公益社団法人全国工業高等学校長協会主催の元、「現状を改革し、将来の工業教育を創造できる指導者を育成する。」という目的で行われた。会場は、東京都の飯田橋駅近くにある工業教育会館で行われ、1週間の日程で行われた。受講者は、全国9ブロックから24名集い、秋田県からは毎年で参加している。講習は、講義、グループ討議、実地見学等多岐にわたり、工業教育に関する内容を研修した。実行委員が関東の工業高校校長先生方であったため、終始緊迫した研修であった。



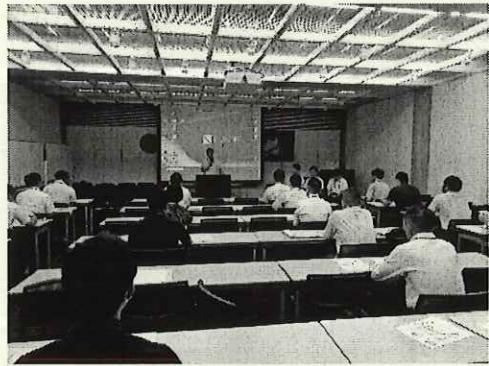
工業校長会旗

2 講習会の日程・内容

7月28日（日）1日目

<事前準備>

- ・受付
- ・事前説明
- ・自己紹介



事前説明の様子

7月29日（月）2日目

<開講式>

<講話①>「工業教育の活性化」 全国工業高等学校長協会理事長 守屋 文俊 氏

○工業高校の現状

- ・学科別生徒数の推移
- ・工業高校の学校数
- ・地区別工業科生徒の割合
- ・男女比
- ・学科生徒の割合
- ・溶接技能者の女性の活躍
- ・高等学校を選択した理由
- ・大学進学者の推移
- ・就職内定率
- ・製造業への就職
- ・離職率の推移
- 他

<講話②>「工業教育の推進に向けて」 国立教育政策研究所 教育課程調査官 内藤 敬 氏

1. はじめに
 2. 教育の方向性について
 3. 高等学校学習指導要領について
- ・学校の特色化・魅力化
 - ・産業界の動向
 - ・第4期教育振興基本計画
 - ・実験、実習における安全
 - ・「見方・考え方」
 - ・情報活用能力の育成
 - ・学習評価の充実
 - ・実践的、体験的な学習の充実

<討議・演習①>「事前課題について」 東京都立六郷工科高等学校 校長 銀持 利治 氏

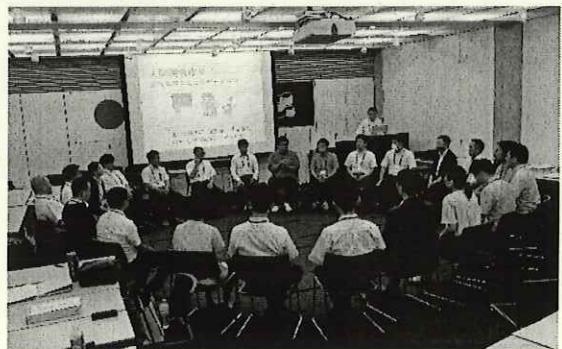
グループ形式で、講習生の自己紹介や他校の現状を話し合った。

後半は、事前課題を使用して各校の特色や問題点などを話し合った。

<講義①>「人間関係づくり・高校生のコミュニケーション」

学校法人弘徳学園豊岡短期大学副学長・教授 原田 敬文 氏

椅子を円状に配置し、体を使って体験型のコミュニケーションゲームを行なった。また、後半の講義では、心理学を元にした保護者への対応やコミュニケーションの取り方を学んだ。



コミュニケーションゲームの様子

7月30日（火）3日目

<講義・演習①>マネジメント研修Ⅰ PHP研究所 廣崎 仁一 氏

1. 「マネジメントの見直し」

- ①マネジメントの基本と組織責任者の役割
- ②「強い組織」づくり
- ③「やる気」の探求

<講義・演習②>マネジメント研修Ⅱ PHP研究所 廣崎 仁一 氏

2. リーダーシップと人間力

- ④リーダーシップとは
- ⑤「人間力」を考える
- ⑥「人間力」を磨く3つの視点

3. 「コミュニケーション・スキル」の見直し

- ⑦コーチングとは何か
- ⑧コーチングの基本スキル ※教育現場におけるコーチング事例

7月31日（水）4日目

<実地見学①>（講義・見学Ⅰ）

(1) 講義「Next Kogyo START project」

東京都立蔵前工科高等学校 校長 古藤 一弘 氏

- ・プロジェクトの基本的な考え方
- ・都立工業高校の変革に向けて
- ・Society5.0を支える工業高校の現実に向けた戦略

(2) 東京都立蔵前工科高等学校 学校説明と見学

<実地見学②>（講義・見学Ⅱ）

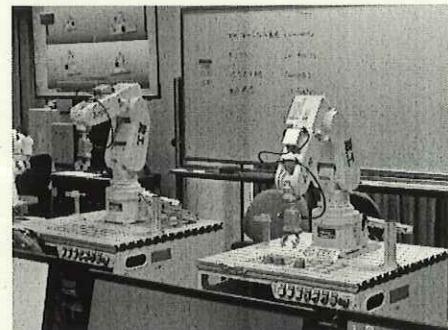
(3) J A L 機体整備工場見学

(4) A N A エンジン整備工場見学

(5) 講義「日本航空学園の紹介及び航空整備関係全般について」

学校法人 日本航空大学校 学長補佐 渡辺 昌利 氏

- ・本邦航空会社の国内線・国際線旅客数の推移
- ・訪日外国人旅行者数の推移
- ・航空整備士・操縦士の人材確保・活用



蔵前工科高校のロボットアーム



J A L 機体整備工場

8月1日（木）5日目

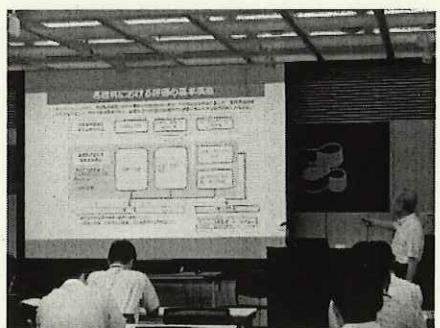
<講義②・③>「学力観の転換と学習指導」 横浜国立大学・名誉教授 高木 展郎 氏

- ・日本における状況の変化
- ・教育が変わろうとしている
- ・学校教育の転換
- ・大学入試の変化
- ・平成30年度改訂の学習指導要領が意味するもの
- ・令和の日本型教育が求めるもの
- ・カリキュラム・マネジメントの意味 他

<講義④>

○「今後の工業高校のあり方」

千葉県立千葉工業高等学校 校長 草刈 廣直 氏



講義の様子

○「高校入試及び卒業者等に関する状況調査について」 付属工業教育研究所 主任研究員 宮戸 健一 氏

○「理工系大学への推薦入学による進学及び国家資格状況調査について」

付属工業教育研究所 主任研究員 稲葉 保 氏

<講義・演習②>（魅力ある工業高校への改革） 東京都立六郷工科高等学校 校長 鈎持 利治 氏

- ・「魅力ある工業高校への改革 何をするべきか？」について、マンダラチャートに自分の考えをまとめ、<討議・演習④>においてグループ毎に発表を行うことにした。

8月2日（金）6日目

＜講義⑤＞「高等学校をめぐる政策と法律」

放送大学学園 理事長 高橋 道和 氏

1. 高等学校に関する法令の体系
 2. 日本国憲法、教育基本法
 3. 学校教育法
 4. その他の主な法律
 5. 高等学校をめぐる政策等

＜討議・演習③＞サブテーマの発表、検討

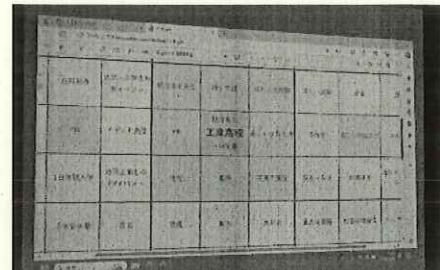
東京都立六郷工科高等学校 校長 銀持 利治 氏

- ・「魅力ある工業高校への改革」についてグループ内で討議した。

＜討議・演習④＞サブテーマの検討、まとめと発表

東京都立六郷工科高等学校 校長 銀持 利治 氏

- ・「魅力ある工業高校への改革」についてグループ毎に発表した。



マンダラチャート



グループ別発表会の様子

8月3日(土) 7日目

＜講義⑥＞「探求を実現するPBL」 金沢工業大学 准教授 木村 竜也 氏

1. 新しい時代に求められる学び
 2. 系統学習と問題解決学習 · 系統学習 · 系統学習の限界 · 問題解決学習 · PBL
 3. PBLにおける教師の役割
 4. PBLのまとめ · PBLが成立する要件 · 学びの過程との関連
 5. PBLに適した評価方法

＜閉会式・写真撮影＞

3 おわりに

今回の講習は、全国から24名の受講生が集まり全員無事に13期生として修了証書を頂くことができた。費用は全て全工協会の負担であったため、相応の成果を上げなければならないと考えどんなことも「N○」と言わずにチャレンジするという目標を立てて参加させていただいた。また、年齢層は34歳から49歳までと幅広い年齢層であり、私は47歳であったため上から数番目の位置であったと思う。そのため、年齢相応の行動がとれるよう積極的に自分からコミュニケーションとることを第二の目標とした。

今回の講習会では、私が苦手とする法律や、マネジメント分野の講習があり、実践例や考え方を分かりやすく指導いただき本当に勉強になった。また、以前より工業高校の未来について同僚と話をすることが多かったが、普通科志向や生徒数の定員割れなど自分たちでは解決できないと思い込んでいる問題があったが、東京都の取組である「Next Kogyo START project」はまだまだやれることはあることを示していたように感じた。

私はこれまでものづくりコンテストやロボット競技などのものづくり教育に特に力を入れてきた。今回の講習でも同じようにものづくり教育に力を入れている方々がおり様々な話をすることができた。私も全国大会で入賞するなど頑張っている方であると思っていたが、講習会期間中に若年者ものづくり競技会が行われ、その中で金賞や銀賞を受賞した指導者がおり、入賞の報告を受けた。本当に素晴らしいことであると感じると共に、私ももっと頑張れる！必ず結果を残す！と改めて力を頂いた。職種や競技内容が違うため、ライバルでは無いが同じ分野で活躍している方を間近見ると本当に輝いて見え良い刺激を受けた。

今回の講習会に参加させていただき、様々なことを学ぶことができたが一番良かったことは全国の工業分野で活躍している様々な方と交流できたことである。近年は仕事や家庭の忙しさを理由に自分の能力向上に向けた努力ができていなかったため、自分に向き合う時間を作っていただいたことに感謝したい。



実践的指導力習得研修講座（高等学校2年目）を終えて

小野 孝之

1 研修の目標

学校教育目標に基づいた教育活動への意識を高め、学習指導やホームルーム経営、生徒指導等についての実践的指導力を身に付ける。

2 研修の日程

I期 令和6年5月17日(金) 10:00～16:15

1 講義・演習

保護者対応と連携

2 講義・演習

学校組織の一員として－学校教育目標とホームルーム経営－

3 講義・演習

授業づくりの充実に向けて①

II期 令和6年9月13日(金) 10:00～16:15

1 講義・協議・演習

授業づくりの充実に向けて②

3 講座を振り返って

I期について

昨年度初任者研修を終え、今年度初めての研修であった。この研修ではクラス担任として必要となるスキルを身につけるための講義・演習が中心であった。

保護者対応と連携では、事例を取り上げ研修者同士でロールプレイをしながらどのような対応が適切なのかを考えることができた。私自身も保護者対応に苦慮することもあり、この研修で学んだことを活かしていきたい。また、学校教育目標を踏まえてクラス目標を設定することやその目標を評価し、修正、改善をするPDCAサイクルを回して行くことが大切だと再確認することができた。

II期について

この研修では自分自身の授業における成果や課題について協議・演習が中心であった。

事前に授業をビデオ撮影し、そのビデオ映像を研修者同士で見合い、成果と課題について出し合った。私の授業の成果としては生徒とのコミュニケーションが取れているという点や導入部分で生徒を引きつけられているという点を挙げていただいた。課題としては、授業の主活動と導入部分をつなげる必要性があることや、授業自体に教師が行いたいことを盛り込みすぎているという点を挙げていただいた。自分自身でも授業デザインが課題であると感じており、沢山のアドバイスをいただくことができ、とても有意義な研修となった。

保健体育科（保健）学習指導案

日 時：令和6年9月5日（木）

場 所：2年4組教室

対 象：2年4組（総合技術科21名）

授業者：小野 孝之

1 単元名 生涯を通じる健康 （ア）生涯の各段階における健康 （使用教科書：大修館書店「現代高等保健体育」）

2 単元の目標

- (1) 思春期と健康、結婚生活と健康、加齢と健康について理解することができるようとする。
(知識)
- (2) 生涯を通じる健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明することができるようとする。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 思春期と健康、結婚生活と健康、加齢と健康について、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとすることができるようとする。
(学びに向かう力、人間性等)

3 単元と生徒

(1) 単元観

本単元「生涯の各段階における健康」は、大単元「生涯を通じる健康」の単元の一つであり、思春期、結婚生活、加齢の各段階において、健康、行動、生活などに課題や特徴があることを学び、生涯にわたって健康に生きていくためには、生涯の各段階と健康との関わりを踏まえて、適切な意思決定や行動選択及び社会環境づくりが不可欠であることを理解する単元である。

(2) 生徒観

男子21名のクラスである。在籍が男子生徒のみであり活気がある。積極的に発言しようする生徒も多くおり、授業に対しての興味・関心は高い。グループでの話し合いが苦手な生徒もいるがICT機器を使用すると自分の意見を入力することができる。ICT機器の操作にも慣れている生徒が多くおり熱心に取り組もうとする生徒がいる一方、文字入力の作業が苦手な生徒もあり支援が必要な場面もある。

(3) 指導観

内閣府によると我が国の高齢化率は28.4%であり、先進国の中で最も高い水準にある。また、2060年には総人口の約56%が高齢者になると予測されており、それは授業を行う生徒達が中高年期を迎える頃である。今後、社会全体が高齢化していく中で一人ひとりがいかに心身ともに健やかな中高年期を迎えることができるかが重要であり、それが社会全体の活力につながると考える。

本時では、生徒一人ひとりが将来の健康を意識し、青年期から望ましい生活習慣の確立に努め、定期的に健康診断を受診する等の自己管理の重要性や保健・医療・福祉の連携を図ることが必要であることを理解させたい。

4 単元計画

主な学習内容	第1、2時	第3、4、5時	第6時（本時）
	⑦思春期と健康	①結婚生活と健康	⑦加齢と健康
	<ul style="list-style-type: none">○思春期における心身の発達や性的成熟に伴う身体面、心理面、行動面などの変化に関わり、健康課題が生じることがあること。○自分の行動への責任感や異性を理解したり尊重したりする態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であること。	<ul style="list-style-type: none">○受精、妊娠、出産とそれに伴う健康課題があるとともに、健康課題には年齢や生活習慣などが関わること。○家族計画の意義や人工妊娠中絶は心身へ大きな影響があること。○結婚生活を健康に過ごすには、自他の健康に対する責任感、良好な人間関係や家族や周りの人からの支援、及び母子の健康診査の利用や保健相談などの様々な保健・医療サービスの活用が必要であること。	<ul style="list-style-type: none">○中高年期を健やかに過ごすためには、若いときから、健康診断の定期的な受診などの自己管理を行うこと、運動やスポーツに取り組むこと等が関係すること。○加齢に伴い、心身の機能や形態が変化すること、その変化には個人差があること、疾病や事故のリスクが高まるのこと、健康の回復が長期化する傾向にあること。○高齢社会では、認知症を含む疾病等への対処、事故の防止、生活の質の保持、介護などの必要性が高まるなどから、保健・医療・福祉の連携と総合的な対策が必要であること。

5 本時の指導計画

(1) 本時のねらい 加齢に伴い生じる影響や中高年期を健やかに過ごすために関係する要素を理解できるようにするとともに、横手市の高齢化の予測を示すデータを通して高齢社会において必要となることを理解できるようにする。【知識】

(2) 授業展開

	学習活動	指導上の留意点及び教師の支援	評価規準と方法
導入 8分	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢に伴う変化を知る。 (一斉) 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を提示し、生徒の興味・関心を引き出す。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">本時の目標：中高年期を健やかにすごすために必要なことを理解する。</p>	
展開 37分	<ul style="list-style-type: none"> ・健康面へのリスクを予測し、スライドへ入力する。 (グループ) ・グループごとに発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導をしながら活動が進まないグループに適宜助言する。 ・各グループの発表を聞いて、新たな視点や考え方があることに気付くことができるようとする。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">発問：老化していくことで健康面へどんなリスクが考えられるだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取り上げたリスクを減らすために必要なことを考え、スライドに入力する。 (グループ) ・グループごとに発表する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">発問：健康面へのリスクを軽減させるため必要なことは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割分担を行い、グループ活動が円滑に進められるようする。 ・各グループの発表を聞いて、健康面へのリスクを軽減させるために必要なことへの理解を深められるようする。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">発問：社会の中で高齢者が増えることで起こりえる課題は何だろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を考える。(グループ) ・グループごとに発表する。 ・健康寿命を延ばす取り組みが大切であることを確認する。 (一斉) 	
整理 5分	・本時のまとめを記入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・横手市のデータを示し、生徒が自分事として考えることができるようする。 ・考える視点を提示し、活動に取り組むができるようする。 ・各グループでまとめた考えを取り上げながら確認し、理解を深めができるようする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢に伴い生じる影響や中高年期を健やかに過ごすために関係する要素、高齢社会において必要となることを理解している。 <p>【知識】 (学習プリント、授業後)</p>

実践的指導力向上研修講座（高等学校8年目）を終えて

総合技術科 教諭 藤田 悠太

1 はじめに

1-1 研修の目標

自己理解に基づき、個々の個性・適性、分掌等に応じた資質能力の向上を図ることを目的とし、主に総合教育センターで2回の研修が行われた。

1-2 研修の内容

(1) 講座I【実施日：6月21日（金）】

- ①いじめや不登校の未然防止と対応
- ②教育活動全体を通じたキャリア教育
- ③学校組織の一員として—自己理解に基づく目標設定—

(2) 講座II【実施日：7月24日（金）】

- ④カリキュラム・マネジメント
- ⑤カリキュラム・マネジメントを軸にした授業改善

秋田県教員育成指標によると、4年目～10年目は実践的指導力向上期（第2ステージ）「実践と改善」の段階と位置付けられ、各キャリアステージで求められる資質能力は「本県の教育課題への対応」、「マネジメント能力」、「生徒指導力」、「教科等指導力」があり、本研修ではそれぞれの分野について総合的に研修を行った。

本稿では、それぞれの研修内容の概要と、研修の成果と課題について報告する。

2 講座Iについて（概要と成果・課題）

講座Iの研修は、それぞれ「生徒指導力」「教育課題への対応」「マネジメント能力」に対応する研修であった。

①では、いじめの定義を再確認し、「法律上のいじめ」と「社会通念上のいじめ」とを区別する必要があることや学び、いじめの事例を研究して、適切な対応の仕方について身につけて行きたいと感じた。また生徒の自己有用感を育むなど、不登校の未然防止の方法などを学ぶことができた。

②では、キャリア教育と進路指導との違いについて理解し、キャリア・パスポートの活用方法について協議を行った。現状高校現場ではキャリア・パスポートの活用は進んでいないが、個々の学びの履歴が見える形のものは必要であると感じた。

③では、自己理解するための手法として「資質・力量シール」の作成を行い、いずれの講義においても、学校事情に合わせた対応が必要になることを学んだ。

3 講座IIについて（概要と成果・課題）

講座IIの研修は、それぞれ「教科等指導力」と「マネジメント能力」に対応する研修であった。

④では、カリキュラム・マネジメントの定義や3つの側面について改めて確認した。学校教育目標を理解した上で勤務校のよさや課題を考え、課題解決の手立てを提案する演習を行った。

⑤では、事前に各校で行った研究授業（参照：学習指導案）の録画映像を各グループで視聴しながら、カリキュラム・マネジメントの視点で授業改善に向けた協議を行った。全体での共有では、いずれも学校教育目標を把握した上で個々の授業を展開する必要性を認識することができた。

4 おわりに

今年度は年次研修があったため、本講座以外にも複数の講座を受講した。特にいじめや不登校、特別な支援を要する児童生徒等への対応に関する研修を多く受け、最新の時事や近年の児童生徒の傾向、個別の事例（いじめ・不登校）への対応を学ぶことができた。今後も「学び続ける姿勢」や「初心」を忘れることなく、常に研鑽と修養に努める教員であり続けたいと思う。

学校名	横手清陵学院高等学校	教科名	工業科（建築計画）	授業者	藤田 悠太
-----	------------	-----	-----------	-----	-------

単元名：第2章 住宅の計画（5／5）

授業日：令和 6年 7月 17日（水）

1 単元の目標と本時とのつながり

「住宅の役割や種類のほか、住宅を構成する基本的な空間や住宅の性能を示し、その計画上の特質について理解させること」などが単元の目標である。住宅の基本知識を身に付けることが、すべての建築設計において非常に重要になる。また時代によって変わる住宅の在り方について、これまでの学習のつながりから自ら問題を発見し、課題解決に向けた学習過程を踏むことができるような授業を設定した。

2 本時の計画

- (1) 本時のねらい ①教科横断的な視点で住宅の計画・設計について理解させる。【A】
 ②これからの住宅設計の課題について考え、解決策を提案させる。【B】

(2) 展開

段階 (分)	学習活動	指導上の留意点	評価（方法）
導入 (10)	1 単元の目標を確認する。 2 本時の目標を確認する。	・これまでの活動の振り返り、改めて単元の目標を確認する。 ・本時の目標を伝える。	
	本時の目標： これからの住宅設計の課題について、調査・考察した内容をわかりやすく発表する。		
展開 (35)	3 発表の手順を確認する。 4 生徒の発表	・3人1組×4班で、一班あたりの発表時間は5～8分程度とする。 ・班内での役割を明確化する。 ・調査した内容と考察した内容を区別し、自らの言葉で解決策を提案する。	
	発表の視点： ①教科横断的な視点で住宅の計画・設計について理解する。 ②これからの住宅の計画・設計の在り方について考える。		
まとめ (5)	5 本時の振り返り	・一班ごとに質疑応答を設ける。 ・講評は適宜行い、最後に全体の発表のまとめを行う。	A: 発表、成果物 B: 発表、成果物

※評価の観点 A：知識・技術 B：思考・判断・表現 C：主体的に学習に取り組む態度

3 協議の視点

○問題解決のプロセスを重視した多様な学習過程の構築

- ・問題、課題、対策がわかりやすいような生徒の発表になっていたか。
- ・これからの住宅の在り方を考える上で、適切な思考の過程であったか。

中堅教諭等資質向上研修を終えて

沼倉 健

1 秋田県総合教育センター中堅教諭等資質向上研修講座を振り返って

I期 (リモート)	○教育公務員の服務 ○学校の危機管理 ○質の高い授業研究を継続的に進めていくための方略
II期	○高い専門性に基づく教科指導の充実と推進
III期	○人間としての在り方生き方を考える道徳教育 ○いじめの理解と対応 ○気になる生徒の事例を通した具体的対応の理解
IV期	○学校全体で取り組む情報教育 ○学校組織の一員として 一キャリアデザイン ○これからの学校教育

I期では、「全体の奉仕者」としての心構えを再確認することができた。10年前には服務と聞いてもイメージできないところがあったが、経験を積むなかで服務に対する考え方や見方が大きく変化してきた。自覚と責任感をもち、行動を続けていく意識が高まった。

II期では、同期採用の先生方の授業を参観することができ、よい刺激となった。自分の授業の「強み」は、三校種採用を生かした授業、生徒指導であると再確認することができた。10年という時間の中で身に付けてきたもの、反対に忘れかけているものがあると感じた。生徒に付けさせたい力やどんな教師を目指していくのかをもう一度考え、気持ちを新たに仕事に取り組んでいこうと思った。

III期では、いじめの理解と対応について大変考えさせられた。現代のいじめは、SNSを伴いかなり複雑化していると感じる。そのときに適切と思ったことであっても、事案として大きくなることも多々ある。一人で抱えることなく、チームで対応することが最も大切なことであると感じた。また、問題が起こってからの対応ではなく、事前の声掛けなど日々の生徒との関わり方が大切であることを学んだ。

IV期では学校組織の一員として、「リーダーシップ」の在り方について、学ぶことができた。これまでの自身のキャリアを図に示し、振り返る活動を行ったがこの先の10年を見据えてさらに充実したキャリアを積んでいきたいと感じた。

2 選択研修について

発達障害をもつ生徒に対しての理解を深め、より効果的な指導方法について学び、今後多様化する教育的なニーズに応えていくノウハウを身に付けたいという思いから、横手市の南かがやき教室で2日間選択研修を実施させていただいた。

文部科学省の調査によると、小中学校の不登校の人数は、約30万人（2023年10月の調査より）となり、過去最多となっている。不登校の内訳は、小学校が10万5112人（前年度比29.0%増）、中学校が19万3936人（同18.7%増）。10年前と比較すると小学生は3.6倍、中学生は2.1倍増となっている。上記に挙げた定義には、行き渋りといわれる子どもたちも含まれていない。これも含めると、実際はもっと多くの学校にいけない子が存在していることになる。不登校の理由について、最も多いのは無気力や不安。ついで生活リズムの乱れ、そしていじめを除く友人関係をめぐる問題、親子の関わり方と続く。

私は三校種採用としてこの10年、すべての校種で生徒に関わってきた。そのなかで、画一的な学校の空気を苦しいと感じる児童や生徒が年々増えていると感じている。違う見方をすれば、画一的でない空気を感じ取れる環境に身を置けば、登校してくるということもある。実際に研修を行った南かがやき教室には、毎日元気に通級してくる児童や生徒が多い。一人ひとり元気だが、学校に行くことに対しては非常に抵抗を

もっている。この違いに対して研修を通して、「居場所」が大きく影響を与えていたと感じた。居場所は安心感であり、自分らしさにもなる。この居場所が学校ではなく、不安に感じて登校できない。

この2日間の研修を通して、今後、実践していきたいことが大きく二つある。一つは、自分が認められることを実感する経験の創出である。具体的には担任として自己肯定感が高まるような個々の強みを生かした場の設定や声かけをしていくことである。普段、見逃しがちになってしまふ行動に対して価値付けを行い、教室内に居場所がある環境づくりを実践していきたい。2つ目は、自分自身の教育活動に対する多様な見方や考え方へ変化をもたらしていくことである。生徒を学校に合わせさせる方向で教育が行われているが、そもそも学校に来ないことが悪いとする価値基準が、正解であるとは限らないということである。広島県では、児童生徒の「主体的な学び」の実現のために、一斉指導を前提としたカリキュラムだけではなく、子どもの実態に応じた多様な選択肢と自己決定を意識した教育活動の推進を掲げて個に応じた支援の普及に取り組んでいる。このように、時代の変化に適応していく考え方を忘れないでいきたい。

文部科学省における不登校児童生徒への支援施策で述べられているように、不登校児童生徒への支援は、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指すことが大切であると考える。一人ひとりに生きる権利があり、社会の一員として自立し幸福になるには、どんな支援が必要であるか今後も考え、実践していきたいと思う。

3 特定課題レポートについて

1 研究の概要

私自身「三校種採用」として、これまで小学生から高校生までの指導に携わってきた。そのなかで、発達段階に応じて、教師側の適切な声掛けや指導の実践が、児童や生徒の表情が明るくなりより充実した学校生活を送ることができることに大きな影響を与えることをより強く感じる。

これまで10年というキャリアを積むなかで、「児童生徒の自己肯定感の高める」指導が大切であることに気付いた。

2 研究の詳細

自己肯定感と自尊感情の違いについて、学校に来校している心理カウンセラーの先生から、自己肯定感と自尊感情の違いについて情報を提供していただいた。

自己肯定感…「I'm OK」「You are OK」

できる自分(相手)もできない自分(相手)も認めている

自尊感情…「I'm OK」「You are not OK」

できる自分は認める。できない自分、できる相手は認めない。(攻撃的or 自信の喪失)

↓

自己肯定感が高い状態＝理想の状態

学校生活(勉強・部活動)で最高のパフォーマンスを発揮できる状態

・「自分に自信がありますか?」の問い合わせ

日本人：多くの日本人が自分に自信をもてないと回答

西洋人：多くの西洋人が自分に自信をもつと回答

※経営学のマーケティング市場のデータ参照

・「なぜ自信があるのですか?」の問い合わせに西洋人は答えられない。

=「根拠のない自信」をもっている。

「行動を起こす頻度の差」 = 経験値の差 という調査結果

3 成果と課題

研究から「行動」することが重要な事象であることを理解した。教師として大切なことは、児童生徒が勇気をもち、その行動してみようと一歩を踏み出すことができる手助けをすることである。私は、すべての校種を経験したことで、どのような発達段階を経て高校生になってきたのかを具体的にイメージすることができる。その経験を生かし、どんな場面でどんな声掛けをすべきかを他の教員よりも多くの選択肢のなかから取捨選択することができることが、「強み」であるとこの研究を通じて気付くことができた。

課題は、自己肯定感が低下している児童生徒の原因が、これまで育ってきた家庭環境にある場合である。介入できる部分もあるが、難しい場面も多々ある。近年は、考え方や家族の在り方も多様化しており、児童生徒の指導が難しい場面が増加しており、そのなかで指導していくことに多くの課題が残る。今後も一つの考え方には縛られることなく、常に変化に対応できる柔軟な思考力が必要であると感じている。

4 今年一年の研修を振り返って

10年間の教職経験の中で、生徒たちの成長を間近で見ることができ、教師としての喜びを日々感じている。同時に、教育現場は日々変化しており、常に学び続けることの大切さを痛感しているところである。特に、ICTの活用や多様な学び方への対応など、新しい取り組みにも積極的に挑戦し、自身の成長にも繋がった今年一年の研修となった。今後も、一人ひとりの生徒に寄り添い、彼らの可能性を引き出すためには、まだまだ多くのことを学び、実践していく必要がある。今後は、これまでの経験を活かしつつ、新たな視点で教育に取り組み、より良い学びの場を創出していきたい。

令和6年度秋田県公立高等学校中堅教諭等資質向上研修講座「授業研修」
公民科「公共」学習指導案

授業者：沼倉 健
日 時：令和6年9月4日（水）4校時
クラス：秋田西高校 2年D組
場 所：2年D組教室
教科書：公共（東京書籍）

1 単元名 民主政治と私たち

2 単元の目標と評価の規準

政治参加と公正な世論の形成、地方自治、国家主権、領土（領海、領空を含む。）、我が国の安全保障と防衛、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関する現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。

現実社会の諸課題に関する諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。

法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。

現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする。

<単元の評価規準>

知識・技能 A	思考・判断・表現 B	主体的に学習に取り組む態度 C
<ul style="list-style-type: none">・法や規範の意義及び役割、多様な契約及び消費者の権利と責任、司法参加の意義に関する現実社会の事柄や課題を基に、憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通じて、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解している。・現実社会の諸課題に関する諸資料から・現実社会の諸課題に関する諸資料から情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。	<ul style="list-style-type: none">・幸福、正義、公正などに着目して、主として法に関する事項について、法、政治及び経済などの側面を関連させ、自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	<ul style="list-style-type: none">・現実社会の諸課題について、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

3 生徒の実態 2年D組（男子12名、女子20名 計32名）

全体的に落ち着いた雰囲気がある。真摯な姿勢で授業に臨む姿も印象的であるが、意見交換の場面では、積極的に発言する場面も多く見られる。

4 単元の指導計画（7時間）

<単元の指導計画>

- | | |
|--------------|----------|
| ・私たちの民主政治 | (1/7) |
| ・地方自治のしくみと役割 | (2/7) |
| ・国会のしくみと役割 | (3/7) |
| ・内閣のしくみと役割 | (4/7) |
| ・政治参加と選挙 | (5/7 本時) |
| ・政党と利益集団 | (6/7) |
| ・メディアと世論 | (7/7) |

5 本時の計画

(1) 題材 政治参加と選挙

(2) 本時の目標 民主政治と選挙制度、日本の選挙制度と課題について、実際の事象とも関連させながら理解する。

過程	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 5分	1. 学習課題へのアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> 選挙権の変遷について考察する。 選挙での投票の仕方について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> なぜ選挙権が「18歳」になったのか、社会状況について着目させる。 投票を行うにあたり、必要なことは何かを気づかせる。 	
展開		選挙に参加することは、どのような意義をもっているのだろうか。		
	2. 選挙の意義についての考察	<ul style="list-style-type: none"> 投票率の低下について把握する。 意見交流をふまえながら、候補者選考から模擬投票までを体験する。 選挙結果を分析し、選挙の意義について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 投票率に関する資料を示す。 Goo gl e フォームを用いた投票様式を準備し、投票→結果発表が即座に行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自身の投票行動が、社会形成にどのように結びつくか、考察している。(B) … 学習シートの記述から。
展開 22分	3. 選挙の課題の確認	<ul style="list-style-type: none"> 選挙制度の問題点について、資料を参考に理解をする。 		
	4. 改善策の考察・交流	<ul style="list-style-type: none"> 選挙制度の改革案として、どんな方法があるのか知る。 自分の改革案を、メリットとデメリットを踏まえて考える。 それぞれの改革案を比較・検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の理解を促すために具体例をパワーポイントを活用し、可視化して提示する。 自分の提案との相違点を指摘し合い、理解を深める。 	
まとめ 3分	5. 本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> 学習シートに本時の課題に対する自分の考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料と友達の意見をもとに、自分の考えを学習シートに記述させる。 	

探究活動について

探究国際部 須田、田口

1. はじめに

本年度、本校の探究活動は新たな発展を遂げた。新課程で開設された3年普通科「探究発展」では、その成果を校外（横手市生涯学習館 Ao-na）で発表する機会を得たことは、大きな前進である。生徒たちは、自らの探究テーマをもとに研究を進め、多様な視点から社会課題にアプローチした。そして、その成果を校外の場で発信することで、他者との対話を通じてさらなる学びを得ることができた。

また、2年生の「探究」活動では、NPO法人 Yokotter の方々をお招きし、テーマ設定に関するレクチャーを受ける機会を設けた。専門的な視点からの助言を受けることで、生徒たちはより明確な問題意識を持ち、探究活動を深める手がかりを得た。これにより、探究のプロセスがより体系的かつ実践的なものとなり、生徒の主体的な学びを促進する契機となった。

さらに、昨年度の「探究基礎」において生徒たちが作成した作品が、外部コンテスト（自由すぎる研究 EXPO）で佳作賞を受賞した。このコンテストは昨年度の「探究基礎」で1年生全員に応募させた物である。

本校では、引き続き「Well-Being」をテーマに掲げながら、生徒たちが主体的に学び、社会に発信できる力を養うことを目指す。今年度も探究活動を通じて、より充実した学びの場を提供し、生徒一人ひとりが未来への指針を見出せるよう努めていく。

2. 活動報告

(1) 高校1年生「探究基礎」

2年次の「探究」に向けて、1年次では「探究基礎」を設定している。生徒個々が自分の力で探究プロセスを経験することで探究スキルを身につけることを目標とする。興味関心から「問い合わせ」をみつけ、仮説を設定し、中間発表では多様な視点と批評する力を養い、仮説の検証まで進める。その結果を考察しスライドにまとめクラスでのプレゼンテーションを経て、ポスター制作、ポスターセッション、振り返りと進めた。

対象生徒 高等学校1年普通科 全員

時期 通年 2単位

指導者 高等学校 教員5名

教材 スタディサプリ探究講座 探究思考BOOK 興味研究WORKBOOK

活動概要 4~5月 スタディサプリ探究講座を活用し、課題の設定について学ぶ

6~7月 探究活動（情報収集）

（夏休み課題）「新書を読もう！」&「新聞を読む！」

8月 中間発表

9月 探究活動（検証）

10月 探究活動（検証）、スライド作成、DX班の活動開始

12月 探究発表会（プレ）

1月 ポスター制作、ポスターセッション

2月 振り返り、次年度に向けた準備

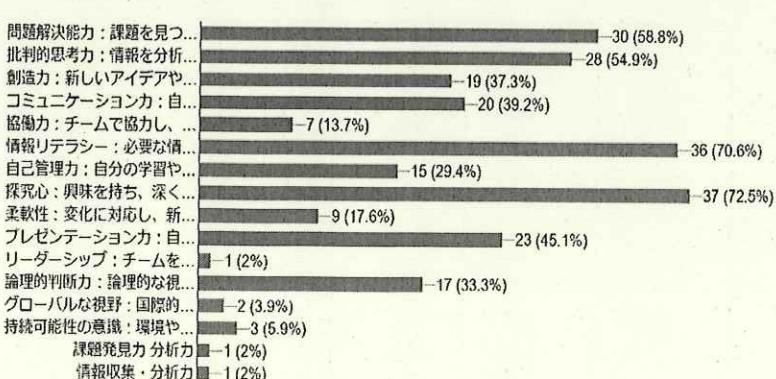
今年度は生徒の振り返りに Google フォームを活用し、生徒の自己評価を可視化できるようにした。

以下に集計結果を挙げていく。

1問目の『活動を通して身につけた力』を候補から選択する質問（複数選択可）では一番に挙げられたのは「探究心：興味を持ち、深く掘り下げる学ぶ姿勢」。次に「情報リテラシー：必要な情報を収集し、適切に活用する力」。続いて「問題解決能力：課題を見つけ出し、解決策

1-1) 活動を通して身につけた力（該当するものすべて選択）

51件の回答

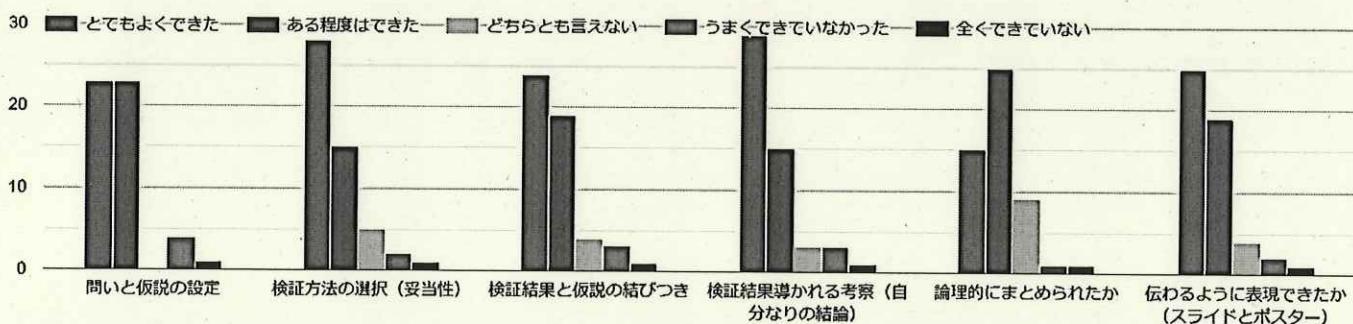


を考え、「実行する力」、「批判的思考力：情報を分析し、評価し、論理的に考える力」が高かった。

次に『活動に対する努力レベルの評価』では個人探究と言うこともあり、主体的に活動できたと評価する生徒が多かった。しかし、計画的に取り組めなかつたと評価している。授業時間以外を活用して活動を進めていくことが出来ていなかつたためと思われるが、「時間がなかつた」と評価しているのであれば「目標とするところまで到達できなかつた」と考えたと思われる。そのように解釈するならば「探究のサイクル」をまわすことができたと評価できる。

『学習効果』について、個人探究なので「興味を持って取り組めた」の評価が高かったことはこちらの狙い通りだった。「計画的」にはできなかつたが、「修正を加えながら行動できた」が高くなっているので、生徒自身が考え選択肢を増やしながら、進む道を決めていったと考えられる。主体的に進められたことは本校の教育目標に沿っているのでこちらの結果も狙い通りである。

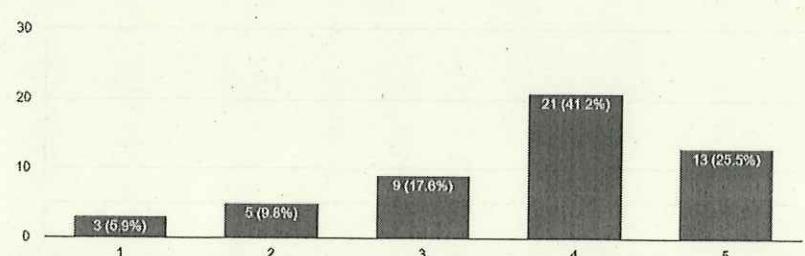
3-1) 探究活動の流れについて



『探究活動の流れ』については、「論理的にまとめられたか」が比較的低く、また、「問い合わせと仮説の設定」も高くないため彼らの今後の課題になると思われる。

『設定した目標に対してどの程度達成できたか』では5を「目標に対して十分達成できた」、1を「目標に達していない」とした。その結果4と5を選択したのが35人と高かった。理由は次の通りである。

3-3) 設定した目標に対してどの程度達成できたか
51件の回答



3-3での評価の理由

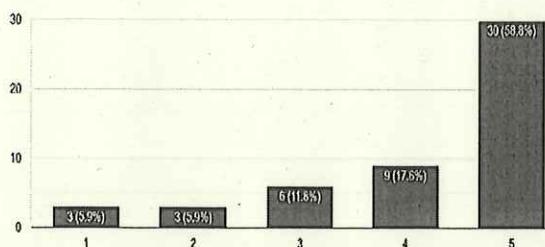
- ▼自分の興味あること気になることをしっかりと調べることができた。目標を決めて時間の最後まで追求して調べることができた。
- ▼個人的にはまだまだ深く調べられたと思った。
- ▼できてないから
- ▼教員と生徒の間の考え方の差の現状はしっかり調べれることができたが、解決策が抽象的すぎた部分があったと思いました。

- ▼説明に行き詰まっているところが多かったと思うし、もう少しわかりやすくできたと思ったから。
- ▼納得するものがつくれたから。
- ▼結果までは上手く進められたけれどそれまでの動きで計画性がなかったのと、ポスターのまとめ方があまり上手くいかなかったから。ポスター作成に時間をついやすことができないくらい時間に追い込まれていた。
- ▼目標に沿ってきちんとアンケート調査と文献調査の一一致する点を探しまとめることができたから。
-
- ▼手段の提示はできたが他の県で既に行われていたことから
- ▼もっと踏み込んだオリジナリティのある方法を考えていればよかったなと思います
- ▼検証結果から睡眠に一番関係してるとわかったから。
- ▼自分の興味のある分野で問い合わせられた。実験で結果を出せた。仮説と検証を結びつけることができた。自分なりの考えも出せた。論理的にわかりやすくまとめれた。見やすいように工夫してポスターを作れた
- ▼文献調査しかできなかつたけどどのように流していくかを伝えることができました
- ▼文献調査から根拠のある結論にすることができたからです。部活動で活かすためにはもう少し踏み込んだ結論にする必要があると思ったからです。
- ▼もう少しアンケート内容を増やして結果につなげられたと思ったから。
- ▼調べた結果から自分なりの新たな疑問や考察をまとめることができたかなと思ったから。
- ▼仮説と考察をしっかりとつなげることができたから、でももっといい仮説を立てることができたと思うから。
- ▼検証を行うことが出来たものの、十分に項目を用意できなかつたことと検証の回数が少なかつたため。また結論でも数値を強調して説得力のあるものに出来なかつたため。
- ▼調べたら近年のWBCの影響でヨーロッパの野球人気が上昇していたり、ドバイにエンターテイメント要素を持った野球リーグができた。
- ▼課題に対してうまくまとめられたから
- ▼目標としていたように結論に持つていけたから。
- ▼情報を集めて資料の流れがわかりやすいようになっていたから。
- ▼検証方法を一つでしかできなかつたから、結論があまりはっきりとしたものにならなかつたから
- ▼自分が思っていた結果になつたがそこからもっと掘り下げていきたかった
- ▼ポスターセッションを行つたときに先生や友達から質問をもらうことが多く、そこで得た意見から、結論はなんでそう思ったのか具体的ではないと思ったから。
- ▼前回のポスター発表会で自分のポスターは導入がなく、いきなり文に入っていて読み進めるときに内容が入つて来づらくあまり納得できなかつたから
- ▼根拠や説得力が足りない結果になつてしまつたから。
- ▼できたが、もっと仮説と照らし合わせて結論を出すことができたから
- ▼インターネットだけでなく実験や本を使いながら自分の力で課題解決に取り組むことができたと思います。
- ▼遠くまで飛ぶ角度を見つけることができたから。
- ▼2つの栄養素に着目したけど、もう1~2つほど取り上げたから
- ▼内容が不十分なところもあったけどできるところまで修正することができたから
- ▼証明がしっかりできたと思うから
- ▼明確な目標をもち、調査を進めることができた
- ▼実験があまり意味のない物になつてしまつた。
- ▼複数の情報を比べて正しい情報を出せた。
- ▼肉や魚までたどりつけたけど、具体的な種類などにたどりつくことができなかつた
- ▼調べた結果から自分なりの考察を考えて結論を作れたから
- ▼実験をして、影響することをデータとしてまとめられたら十分だったが、実験自体ができなかつたから。
- ▼自分なりにまとめてみたが、問いつて仮説があまりつながっていないのではないかと考えたから。
- ▼ルールや思いはわかつたけれど花火会社の花火制作の工夫などを調べられなかつたり、努力や思いが花火をやっている
- ▼人に伝わっているかどうかについて調べられなかつたから
- ▼調べるジャンルを少し狭めすぎてしまつたから

- ▼もうちょっと調べて論文など深く読めればいいと思ったから
 ▼計画性がなく、取り掛かるのが遅くなってしまったため、そこまでたどり着くことができなかつたから。
 ▼アンケートで多様な意見が得られたため
 最後に『楽しんで探究活動はできたか』『探究基礎を始める前と比べ自分自身に自信や力につけることが出来たか』への回答では比較的高い評価となっていた。

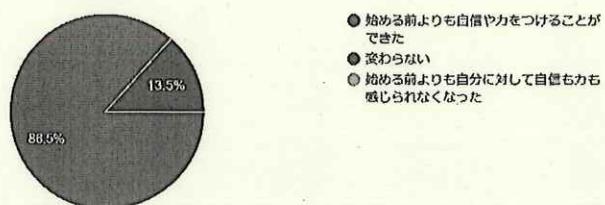
4-1) 楽しんで探究活動は出来ましたか?

51件の回答



4-2) 「探究基礎」を始める前と比べ、自分自身に自信や力につけることができましたか?

52件の回答



R6 探究基礎「問い合わせ」と「仮説」の一覧

探究基礎の「問い合わせ」を入力してください。	探究基礎の「仮説」を入力してください。
人には別腹はあるのか？	誰にでも別腹はあるのか？
スマホ依存と睡眠の関係	スマホ依存は睡眠になにか関係しているのではないか
教員生徒ともに納得できる校則にするために	教員と生徒の間で髪色に関する校則に対して認識の差がある。
なぜ駄菓子はパッケージを変えなくても売れているのだろうか	ものすごい生産量と安い値段で売られている
時代とともに変化した髪型	日本のヘアスタイルは時代とともに変化していったのではないか
価値観は性別によって異なるのか？	価値観が同じであれば交際は長続きするのか
眠気を感じなくなる条件と有効な眠気対策	眠気を感じなくなる→温度や湿度を調整し8時間以上の睡眠をとれば眠気が軽減されるのではないか 有効な眠気対策→何らかの刺激を与えれば眠気が軽減されるのではないか
色で人を誘導する事はできるのか	色の特性や人に当てる影響を知ることで誘導することができるのではないか
除雪中の事故を減らすには	対策について知らない人が多いのではないか
疲れが取れる睡眠のとり方	スマホを寝床から距離を置いて離すことや寝る前はスマホを見ない
清陵学院野球部におけるシャウト効果を効率的に出現させる方法	発生の際に起こる体の動きがシャウト効果を生み出している。
流行語はどのようにして生まれて流行するのか	1 TikTokなどのSNSを通じて東京発信したものが流行るのではないか 2 女子高校生が言ったものが流行るのではないか
長距離選手と短距離選手で筋肉のつき方は違うのだろうか	短距離選手のほうが筋肉量が多い
勉強を長く続けるには	自分の最も集中できる場所、時間、ものでやればいいのではないか。
なぜ日本語と英語は語順が全然ちがうのか	<ul style="list-style-type: none"> ・日本は他の国への影響を受けず日本独特の言語文化を構築してきたと思う。 ・日本語と英語のできた歴史的背景のちがいがそれぞれの言語に表れていると思う。 ・英語のできた歴史には移民などの民族が大きく関わっていると思う。
フルーツと美肌は関係あるのか	フルーツを毎日欠かさずに食べていると肌が綺麗になる

	のではないか
運動神経の良さに個人差があるのはなぜか。	運動能力はトレーニングを積むことで向上させることが出来る。
なぜ世界中で野球の競技人口が少ないのか？	経済的に厳しい国では道具を揃えるのが難しそう
身長によって100メートルのタイムは変わるのか	足が長い人が他の人に比べて一歩が大きいからタイムが速くなると思う。
昔の時代の告白は今でも通用するのか？	通用しない
音楽を聴くとどのような効果があるのだろうか。	音楽を聴くと満足感や幸福感を感じやすくなるから。
音楽とスポーツの関係性について	音楽のリラックスする効果などによって集中力を高め、スポーツをしていくうえで、パフォーマンスにつながっていくのではないか。
相手に良い印象を与えるには	笑顔を心がける、髪型・服装をだらしなくしなければほとんどの人から良い印象をもらえるのではないか
ブランドを作るうえで大変なことは何だろうか	ブランドを立ち上げるときに費用がかかってしまうのではないか
なぜ桜の多くは春に咲くのか	ハチや鳥が多くなると種子を遠くまで飛ばしてくるかもしれないから
内閣や地方自治体の高齢運転者事故防止活動には効果があるのか。	社会全体がこの問題を認知していて、それを内閣や地方自治体が意識しているので効果あり
校長先生は普段どんな仕事をしているのか、またいつも何をしているのか	校長先生を校内で普段見かけることが少ないので、出張などの出かける仕事やデスクワーク系などの仕事が多いのではないか
凍らせた飲み物を長持ちさせる方法は何か？	光を反射する性質を持っているアルミホイルが一番溶けにくそう。
紙飛行機を遠くまで飛ばすにはどうしたらいいか	紙飛行機の投擲角度を変えてみれば遠くまで飛ばせるのではないか
筋肉がつくと身長が伸びづらくなるってほんと？	筋肉が固くなり、骨の成長を妨げているのではないか
秋田県の学生が県外に流出するのはなぜか	秋田県に若者が働きやすい職業がないからではないか
どのような球種が一番打たれにくいのか	カーブという球種を使っている投手が被打率、防御率ともに低いのではないか
すし屋でガリが置かれているが、ガリ以外が置かれていないのはなぜか	ガリを紅生姜にしても代りになるのでは
なぜ将棋の駒は現在の形になったのか	時の権力者が形をきめ、庶民にも時間をかけて浸透していったのではないか。
スポーツ後の体を疲労回復してくれる食べ物はなんだろうか	酸味がある食べ物や果物が効果的のではないか
貧乏ゆすりはなぜ行儀が悪いと言われるのか	見ている側がイライラしてくるからではないか
部活動の練習中に音楽を聞く人がいるのはなぜか	部活動の練習中に音楽を聞く人は、練習に対するモチベーションをあげるために音楽を聞いているのではないか。
人によってペンの持ち方が違うのはなぜか？	親が正しい持ち方を教えていくなかで、自分にあった持ち方を見つけたため
なぜ手持ち花火の延焼時間は長くても1分程度しかないのだろうか	1分ほどになっているのは、心理的に考えると儂さを感じさせるためにわざと短くしてまたやりたいと感じさせている。経済的に考えるとそもそも火薬をいれるができる量に制限がかかっている
ロックが人に与える影響は何か？	気分の高揚を引き起こすのではないか
なぜ野球は帽子を被っておこなうのか	帽子は熱中症予防になるという説があるから熱中症予防のためルールで決まっているのではないか
なぜ若者の就農率が低いのか？	費用などの様々な問題があり、手軽に始められることが

	できないため、就農率が低いのではないか。
アイスと季節にはどのような関係があるのか	アイスは夏、冬に需要が高くなり、春、秋に需要が低くなる

活動概要で詳しく触れていないが、生徒個人に対して教員からのアドバイスは平均3回以上行っている。教員からは「教員が考える答え」ではなく「なぜ」という質問を繰り返すことで生徒自身がどこに向かっているのか（ゴールをどこに設定しているのか）の自覚と確認を行った。また、考えが至っていない場合はなるべくたくさんの視点や選択肢の可能性を伝え、多角的な視点がもてるよう促していった。指導の難しさはあるが生徒から充実していたという感想がでているので「自分で考え、調べ、決定した」という自信と思いがあると思われる。本校が大切にしている探究の基礎としては一人一人に成長を実感させたことで目標達成できたと思う。

その他、感想や来年度に向けた要望を入力してください。

- ▼次はみんなが気になるようなことを調べて、みんなが見て聞いてわかりやすい探究を作りたいです。知って得する問い合わせたりたい。
- ▼来年度はグループ活動みたいなので自分から発言して一年のときよりも成長した姿でいたいです。
- ▼来年は、グループ活動だけど今回の経験を活かして沢山の人の興味を引ける探究を作りたいです。
- ▼みんなそれぞれのテーマで一人ひとり面白かった。
- ▼グループ活動は話し合いながらできるから1人でやるよりも歩むとおもったので、作業を分担してスムーズに活動できるようにしたいです。
- ▼来年はグループ活動になるので、3年生につながるような探究をしたいのと自分たちの身近なことでみんなが知り得したり、みんなの興味を引くような探究がしたいです。
- ▼今年の探究活動を通して一つの問い合わせについて深く調べ自分なりに考えてみるという力が身についたと思います。それは日常生活でも役立つ力だと思うので役立てていきたいです。また、来年の探究活動では見通しを立てて計画的に進めていくことを目標にしたいです。
- ▼来年はグループ活動なので意見を沢山交わして一人じゃできないような探究をしたい！
- ▼楽しく探究活動ができた。来年度も自分の興味のある分野を探究したいと思った。
- ▼来年からはグループでの発表なので一人ではできなかったことをやりたいです
- ▼みんなの探究発表を聞いて自分では考えたことのない問い合わせたくさんあってとても面白かったです
- ▼私は自分の意見を人に言うのが苦手だけど、実験や文献調査からうまくまとめて、みんなに考えを伝えることができた。来年はグループだから仲間と協力して効率的に、楽しく、将来で活かせるような探究ができるようにしたい。
- ▼最初は探究がすごく難しくてあまり好きではなかったけど、段々コツを掴むことができてきて、すごく楽しく探究できました。また、他の人のポスターを見たり、発表を聞いたりすると、全然着眼点も、考え方も違ったので考えの視野を広げることができすごく楽しかったです。あと2年間授業で探究活動ができるので、今年のよりももっといい探究ができるように楽しみたいです。
- ▼今年度より良いものを作りたい。
- ▼来年はグループ活動になるからより主体性を持って取り組みたい
- ▼来年はグループで活動なので新しい力をつけられるようにしたいです。
- ▼グループになるので今年度とは違った大変さがあると思うので頑張りたい。
- ▼今回の探究活動で改善するところや参考になった所を来年は活かせるようにしたいです。
- ▼自分が疑問に思っていたことを簡単ではあるものの解決できてよかったです。周りの人達がどんなことを調べていてどこまで到達しているのか、過去の探究はどんな感じだったのかを見れたらより自分の探究を深められると思う。
- ▼この探究基礎の学習で得たものや身についた力があったから、来年度はより良いものになるために今回の反省点を活かしていくように頑張りたいです。
- ▼今年度の探究は調べ学習みたいになってしまったので来年度はその調べ学習感をなくしたいです。
- ▼来年はグループだから、協力できるように頑張りたい。
- ▼余裕を常に持つて時間いっぱい活動したい
- ▼今まで自分が疑問に思っていたこと納得の行くまで調べることができました。最初はまとめと仮説を繋げ

られるか不安もありましたが、最後はしっかりとまとめる事ができたので良かったです。来年はグループ活動になるのでコミュニケーション力や主体性を身に着けていきたいと思います。

▼実際に実験をしてみるとすることをしてこなかったので今回の探究活動はいい経験になったと思う。来年の探究にも活かしていきたいと思う。

▼肉体や栄養に関する論文はかなり多い方だったので、スムーズに情報収集できて良かったです。来年も似たような問い合わせで探究をしたいと思っています

▼二年生になったときに1年で学んだ反省点を生かしてグループ活動で発揮できるようにしたいです。

▼来年はグループ活動でよりいっそう難しくなると思うのでしっかり話し合い意見を出しあって行きたいと思います

▼探究の時間を通して疑問に感じていたことについて詳しく知ることができました。

▼来年は様々な調査方法を試してみようと思います。

▼できるだけ身の回りのものを探究していきたい。

▼一年生のときよりも、もっと発展した探究にできるように頑張りたいと思います。

▼興味があることについて詳しく知れる良い機会になった。部活動にも活かせることが分かったので、大会や記録会のときはW-upのときに音楽を聞くようにしたい。

▼問い合わせを考えるのが大変だったけど、探究の時間を通して、いろいろな力を身につけることができた。

▼全く持って別のことを探しててもいいと思ったけれど、今回手持ち花火のことについて調べたので、次回は打ち上げ花火のことについて調べてみたいなと思いました。

▼来年はグループで行う活動になるのでみんなで話し合っていい探究にしたいです

▼来年はグループになるので人に頼って任せっきりにはならないように自分でも深く調べていきたいです

▼調べたいことは隅から隅まで調べ尽くしていきたい

[DX班]

▼この一年間は決して無駄ではなかったと思います。自分の知らない世界に足を踏み入れることで新たな知識を頭にいれることができましたし、班で活動することの意義を少し知れた気がするからです。来年度からは通常の探究に戻って自分たちの興味のあることを探究しようと思います。

▼今年を振り返って、2学期から参加したDXが想定以上に難しくビジョンが不明瞭で、自分ができると思っていた、したかったことが実現されずに、あまり関心を持って活動ができませんでした。来年度はDXではなく通常の探究活動に戻り、清陵や横手などの地域に絞って疑問を導き、自分やグループ全体が満足できる活動をしていきたいと思いました。

▼2年生ではDXの活動から抜けて通常と同じグループ探究をしたいと思っているので、DX班で感じたグループ活動の難しさを踏まえて、より計画的かつ主体的に行動していきたいと思いました。

▼DXに加わる前の探究では、様々な課題を考案し、それぞれに様々な問題点がありました。しかし、他の人のポスターを見ると、自分が出して却下されてしまった課題も検証可能だったのでないかと感じました。来年度はグループ探究になり、より課題設定が難しくなると思うので、似たような先行研究のある課題も許容してほしいと思いました。

▼客観的数据がなくてもできる実験をしたい

▼探究活動を通して、それまで知らなかつしたことなどを知ることが出来ました。

DOORのroomを作る作業など、楽しんで探究活動を行うことが出来ました。

▼自分のためになることをしたい

▼来年はもっと楽しんで、活動を行えたらいいかなと。あとは仮説や実験を練りに練って行い、良い結果がついてくることを祈るばかりです。また、ポスターやスライドにまとめた時に伝えたいことが簡潔に面白く相手に伝わるように工夫を凝らしていきたいです！

「探究基礎」の活動としては十分であると思うが一覧にあるように「問い合わせ」と「仮説」の表現に問題があるので、2年次ではもっと表現の指導について工夫していきたい。

活動自体は満足している生徒が多く、「探究の楽しさ」を感じているようなので、2年次の「探究」では深く掘り下げていけるような指導を心がけたい。

(田口)

(2) 高校2年生「探究」

高校1年次の「探究基礎」を踏まえ、2年次の「探究」では、より深いテーマ設定と本格的な調査・分析に取り組む。グループで探究活動を行い、社会課題や科学的テーマ、文化的な問い合わせなど、多様な視点でテーマを選定する。仮説を立てるだけでなく、データ収集やインタビュー、アンケート調査、実験などを通じて、客観的な検証を重視する。中間発表では、論理的な構成やエビデンスの妥当性について相互に批評し、探究の質を高める。さらに、プレゼンテーション能力の向上を目的として、スライド発表やポスターセッションを行う。最終的には、探究の成果を校内外で発信する機会を設け、地域社会や専門家との交流を通じて、実社会での課題解決に向けた視点を養う。地域文化コースは高校3年次の「探究発展」につなげるために、自ら問い合わせ立て、論理的に検証し、成果を社会に還元する力を養うことを目標とする。

次表に今年度の活動状況と探究テーマを示す。

表 活動状況

月	活動概要	実施状況
4月	・ガイダンス ・テーマ決定・研究計画立案	
5月	・研究テーマの再検討・具体化 ・研究計画書提出	
6月	・調査・検証 ・「仮説と計画」発表会	6/11 実施
7月	・調査・検証 ・出前講座	
8月	・調査・検証	
9月	・中間発表会 ・踏査・検証	9/10 実施
10月	・探究発表会ガイダンス ・探究発表会準備 ・スライド作成、発表練習	
11月	・探究発表会 ・探究発表会の振り返り	11/19 実施
12月	・ポスター制作	
1月	・論文執筆&次年度のテーマ探し	
2月	・論文提出	
3月	・論文再提出 ・振り返り	

表 探究のテーマ

コース	班	テーマ
グロ文	1	子供に夢を抱かせるにはどうすればよいのだろう
	2	若者が抱えているストレスを解消していくには
	3	ブラウントラウトによる被害を抑え、有効活用するには
	4	身の回りにあるものを使って、能力を身につける
グロ理	5	犬猫の殺処分を減らすには？
	6	カメムシによる被害を減らすにはどうしたらよいのだろうか？
	7	目が覚めやすい目覚ましの音とはどのような音か？
	8	横手川のブラウントラウト交雑種の確認と生態調査・対策

	9 バッタの姿や体調は食べ物によって変わるのか。
	10 障害者が働きやすい環境を作るには？
地文	11 SNS 依存の改善や対策をするには
	12 川をキレイにしホタルを増やす。
	13 学食を活性化させるために

次に活動終了時の振り返りで、生徒の自己評価をアンケート形式で得た。二つの質問について、質問と回答を掲載する。

今回の探究活動で学んだことを書いてください。

- ▼最近の子供は、宇宙飛行士になることなどは実現が難しいと分かっており、実現可能な夢を抱く傾向にあると分かった。その為夢を持つ人は減ってきているとわかった。
- ▼自分たちの疑問となるところからテーマを考えてその結論を出すためにグループのみんなで話し合いながら考える力を学ぶことができました。
- ▼自分たちでテーマを設定したり、計画を立てて調べたりすることの難しさを学びました。
- ▼将来の夢を持つためにはたくさんの経験、両親や友達との夢についての会話が大切だと分かった
- ▼情報収集がとても必要なことを改めて知ることができた。グループの人とのコミュニケーションがどれくらい必要かを気づくことが出来たので良かった。
- ▼自分から課題解決に向かう大切さや環境を大切にしていきたいと思い、SDGsに貢献していきたいと思った
- ▼yokotterの人や周りの人の意見を参考してに考えると力になり助かる。
- ▼まず最初は、情報収集がとても大事なことだと思いました。自分たちだけでは知らないことがたくさんあって、その状態で探求しても世に出回っていることと同じことの繰り返しになったり浅い内容になったりしてしまうので周りの大人から情報やアドバイスを受け取るのは必要なことだと思いました。インターネットの情報だけでなく学校の先生方やよこったーの方々からの情報やアドバイスによって、より面白い探求になったと思います。それだけではなくて、自分たちでよりアイディアをねって検証したり提案をしたりすることで自分たちの探求にできたと思いました。
- ▼飼育観察をするときは環境を整えてから行うことが大切。
- ▼日常に以外に密接しているカードゲームの便利さがわかった。
- ▼調べることの大切さがわかった。
- ▼主体性やみんなで協力する力、情報を収集する力。
- ▼今回の活動を通して、情報を集める方法やその情報を用いて、活動につなげていく方法を学び、探究活動において大事なことだと思いました。
- ▼文章や考察など考えること。
- ▼今回の探究活動では課題発見能力、主体性を学びました。
- ▼自分たちで全て行うことで役割を決めたり真剣にテーマに取り組むことの大切さを学んだ。
- ▼協力も大切だが、個々で課題解決に取り組む姿勢も大切だと学んだ。
- ▼アンケートなどで調査するなどの新しい調査方法を学ぶことができました。また調査したことをどのようにしたら相手に伝わりやすいかなどを考えて情報を発信する方法を学ぶことができました。
- ▼課題解決に必要な情報収集能力や多くの情報から必要な内容をわかりやすく、短い文章にまとめる力を学ぶことができました。他には、犬猫の殺処分がどのように行われているのか、殺処分が増加しているのかしていないのかなど今まで知らなかつた譲渡に関する事についても学ぶことができました。
- ▼今回の探求では、自分たちが知りたいことが判明しなかったり、考察が外れていたりと多くの困難がありましたが、近くの川ではどのような問題が発生しているかを調べそこから論理的に自分たちが調べている川の問題に繋げるといった論理的に考えることの大切さと、わからないことがあった場合、その周りから調べていくことが問題解決に向けて大事なことであることを学ぶことができました。
- ▼障がい者と関わるうえで大切なことはその人の特徴や性格を知りその人にあった関わり方をすることだと知ることができました。
- 何人かと協力するためにコミュニケーションを取ったり、報告・連絡・相談ををしっかりしたこと。また、長期的な課題解決だったため、計画をしっかり立て、実行するための準備を怠らないようにしたことです。

- ▼結果や考えたことを文章にする力を学んだ。
- ▼学んだことは、障がい者がどのようにしたら働きやすい社会になるのかを学ぶことができた。
- ▼SNS だけではなくアンケートをとるなど多くの人に協力してもらうことでよりよい探求活動になることがわかった
- ▼インターネットの情報だけでなく、自分たちで検証してみることで新たな発見が生まれることが分かった。
- ▼自分が家庭を持たときに夢を持つ子どもにどのように接することで夢の実現に繋がるかを学んだ
- ▼実際に体験など触れ合って見ないとわからないことことが多くありました。燻製なども実際にやって失敗したから次への対策がわかったので失敗からたくさん学べました
- ▼グループでテーマを決める難しさを学んだ。また、協力する大切さを学んだ。
- ▼情報を上手く活用することが大事だとわかった。
- ▼協力の大切さをしりました。もっとコミュニケーションを取ればもう少し発展した探究が出来たのではないかと後悔しています。それでも、自分たちの課題で多くの人がいかにスマホに依存していることがわかったと思うので、これからもスマホの使い方に気をつけて生活していきたい
- ▼誰かと研究する時は、共有するべきということ。
- ▼目覚める方法として音以外に、五感に着目したことから物事を多面的に考えることが大切だと学びました。
- ▼先生や同じグループの生徒でも自分からコミュニケーションを取ることが大切だと学んだ。
- ▼自分たちで課題を立てそれを調査する難しさと楽しさ。
- ▼自分たちの問い合わせについて調べる力・実行する力を学ぶことができた。
- ▼魚の捌き方、燻製の仕方、川魚の捕獲のルール、ブラウントラウトの特徴
- ▼仲間と共に商品を開発する際の取り組み方を学びました。
- ▼コミュニケーションを取ることの大切さ。
- ▼仲間と互いの意見を尊重しあい、誰かに負担や仕事の量が偏らないように協力することを学んだ。
- ▼計画的にできなかつたので計画性を持つことが大事だと学んだ。
- ▼自ら行動して結果を手に入れる。
- ▼研究から考察に至るまでに間に多くの情報を交えて考える必要があると改めて学習することができました。結果だけでなく事前に収集していた情報も用いて自分たちの結論を見出すことが重要な学ぶことが出来たと思います。
- ▼近年 SNS 依存者が増えており、それを予防するためにはスマホの使いすぎや時間の使い方に気をつける必要があるということを学んだ。
- ▼グループでの課題解決に向けた行動と、欲しい情報を誰から、どこから集めるのが適切か考えることを学んだ。
- ▼仲間と協力し、課題を発見する力を得ました。
- ▼グループでアイデアを一つに絞る難しさ、協力して結論や課題を出す大切さを学んだ。
- ▼仮説を考えるときや調査をするときに、なぜそうなるのかなど、具体的なところをしっかり考えて、発表するときにもそれを伝えることで、よりわかりやすく相手に伝わり、自分たちも納得できる探究活動になることが分かった。
- ▼今回の探究活動では、自分たちが生活していて気づかないところでたくさんの問題が起きているのが改めて知ることができました。
- ▼今回の探究活動では協力することの大切さを学びました。1 人ではやり切れないこと、気づけないことがあったというのが理由です。
- ▼自分の気になることについて調べるということは難しいことだと思うし、大変だと思うけどグループの人たちと協力してみんなで話し合っていい探究活動ができたのではないかと思いました。また、学んだことはたくさんあるけど、その情報からどう考えるのや調べる楽しさを学ぶことが出来ました。
- ▼コミュニケーションの大切さ、効果、カードゲームの柔軟性。
- ▼計画の練り方や進め方などを知ることができた。
- ▼今回の探究活動では SNS 依存の現状を知るとともに改善策を検証して SNS 依存について深く学ぶことができた。
- ▼身の回りという制限の中で子どものコミュニケーション能力を上げる方法を学べた。
- ▼先人方の知恵を使い、自らの力にして問題解決に迎えた事。
- ▼自ら行動して結果を手に入れる。
- ▼課題解決に対する情報収集力、分析能力。
- ▼観察や実験を行うときには環境を整える、曖昧な部分はメンバーと話し合って考えることが大切だという

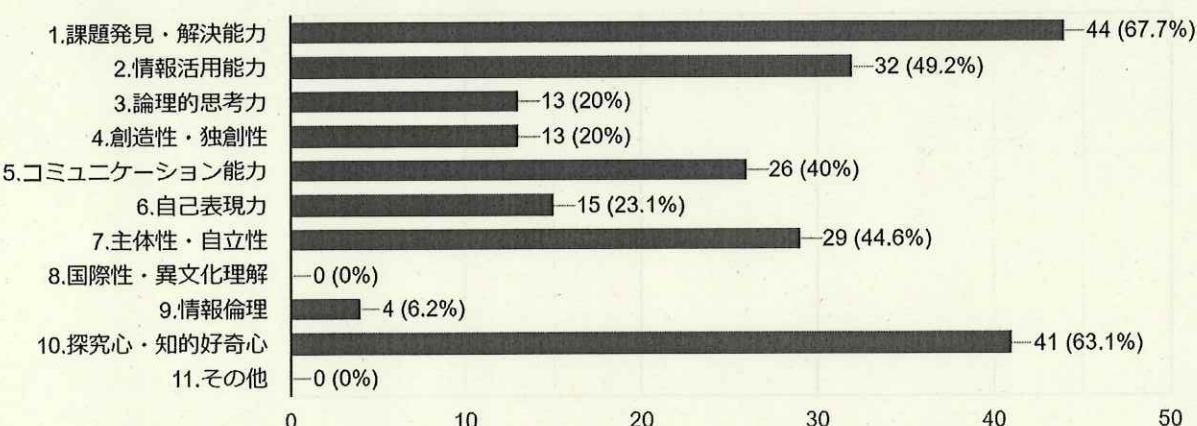
こと。

- ▼研究を成功させることの難しさや地域の方とのコミュニケーションですション。
- ▼大人の方々のちからなど周りからの指摘等などがなければ上手くできること。
- ▼自主性をもってテーマについて探究することが大切だということを学びました。
- ▼問題解決・考察において、様々な視点から見ることで、見えてくる内容も違って、観点の重要性を学んだ。
- ▼協力して物事を解決、達成する難しさと喜び。
- ▼自分から率先してストレスについて調べることができたので自主性の大切さを学んだ。
- ▼あなたが探究活動をするにあたって心がけたこと、頑張ったところを書いてください。
- ▼一方向を考えることなく色々な選択肢を考えながらの行動をする事。
- ▼相手が見た時に分かりやすいように工夫してまとめた。アンケートの声掛けを頑張った。
- ▼グループ活動なので自分の考えでなく、仲間の考え方をしっかり聞いて取り入れてみんなで良いものを作れるように頑張りました。
- ▼調べたことをわかりやすくまとめるのを頑張りました。
- ▼グラフなどをつかった聞き手にわかりやすいスライドを作ることを心がけた。
- ▼どのような情報が聞き手が必要なのか、どのような情報がスライドに必要なのかを見極めることを心がけた。
- ▼ゴミ拾いや班のメンバーとのコミュニケーション。
- ▼すでに行われている実験と被らないようにしながらもその情報を活用すること。

探究活動をして伸びたと思われる能力を選んでください（複数可）。

探究活動をして伸びたと思われる能力を選んでください。（複数可）

65件の回答



伸びたと思われる能力

上記の結果から、生徒が伸びたと感じる能力の上位は、課題発見・解決能力（67.7%）、探究心・知的好奇心（63.1%）、情報活用能力（49.2%）であった。これらの結果は、探究活動が生徒に主体的な伸びを促し、課題に対して論理的に考察しながら解決策を模索する力を養う機会となっていることを示している。特に、自ら問いを立て、仮説を検証し、プレゼンテーションを通じて成果を発信するプロセスが、論理的思考力やリサーチ能力の向上につながっていると考えられる。

一方で、国際性・異文化理解の伸びを感じた生徒が0%であったことは大きな課題として捉える必要があるが、これは、探究テーマの選定や活動内容において、国際的な視点や異文化との関わりが不足している可能性がある。

(3) 高校3年生「探究発展」

2年次の「探究」を終えて、3年次では地域文化コースに「探究発展」を設定している。グループ編成は生徒に任せ（個人でもグループでも可）、「well-being」を大きなテーマに地域課題解決に向けた探究活動を行う。高校1年次の探究基礎、高校2年次の探究を踏まえて、新たに「問い合わせ」をみつけ、仮説を設定し、中間発表、調査・検証、その結果を考察しスライドにまとめプレゼンテーション発表（校内、校外の2回）を経て、ポスター制作、振り返りと進めた。今年度初めて校外発表の機会を設け、1月11日（土）に横手市生涯学習館Ao-naの1階スタジオで行った。市の広報などに情報公開したが期待したほど来場者は見込めなかった。開催時期については再度検討したい。しかしながら、来場者の中にも積極的に質問をくださる方がいた。継続していくことでこの発表会の定着を図り、地域の方々へ本校の教育活動の周知を図っていきたい。

対象生徒 高等学校3年普通科 地域文化コース

時 期 通年 2単位

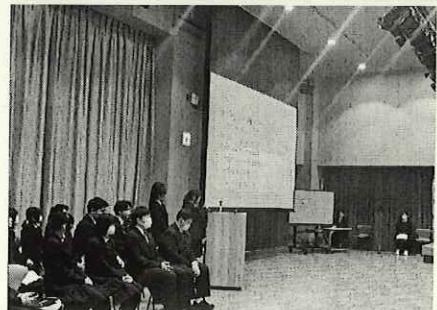
指 導 者 高等学校 教員3名

活動概要	4月 計画書の作成 5月 調査・検証 6月 仮説と今後の計画についての発表会（コース内） 調査・検証 7月 中間発表1 8月 調査・検証（夏休み中も活動） 9月 中間発表2 調査・検証 10月 発表会に向けた準備、「探究発展」発表会（校内） 11月 ポスター制作、「探究」発表会参観 1月 「探究発展」発表会（横手市生涯学習館Ao-na 1階スタジオ 2025/01/11） 2月 ポスター制作、引き継ぎ資料の作成、振り返り
------	---

《 今年度の各グループの問い合わせ 》

	問い合わせ
1	こども食堂に来ている子どもたちのためにできることはないだろうか
2	農家の仕事をたくさんの人々に知ってもらい、食を通して農家と消費者側とのつながりを深めるためには？
3	食事配達サービスで独居高齢者の食事を支え、健康寿命を伸ばすことができるだろうか
4	廃棄される酒粕から新たな商品を開発するには
5	Z世代に横手市の魅力である人の温かさを伝えるために、赤門祭を通してたくさんの人に私たちがその魅力を伝えることが出来るだろうか
6	横手市の年間の観光客数を増やすためには、どのような取り組みをすればよいだろうか
7	横手のりんご染めの魅力を伝えるには
8	子どもたちが将来の夢を抱くために小さい頃から職業への関心をもたせるにどうしたらいいか

探究発展発表会 in Ao-na



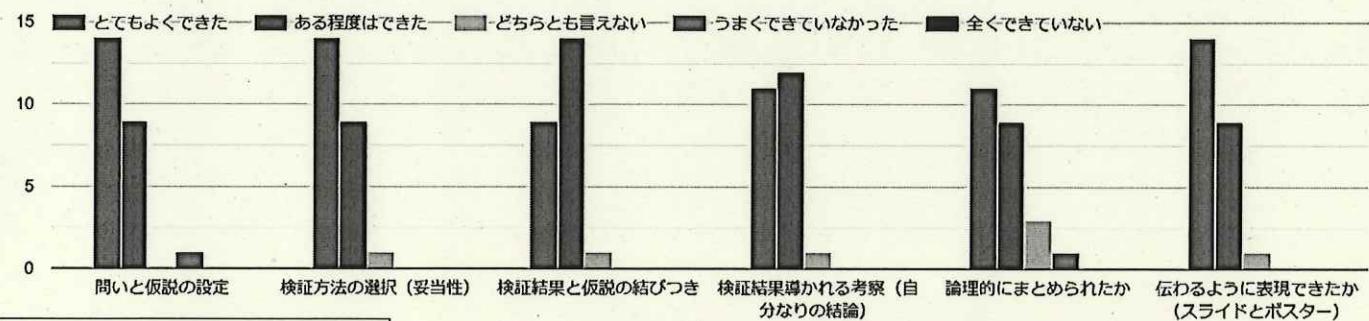
《生徒の振り返りから》

始めに「活動を通じて身につけた力」という質問に対して「問題解決能力」、「コミュニケーション力」、「協働力」、「創造力」、「探究心」が高かった。選択した理由を見していくと「問題解決能力」については、調査・検証結果から結論、まとめにつなげるまでに自分たちの力だけで見つけなくてはいけないため、「たくさん悩んで考えた」という記述が象徴していると思う。また、次に多かった「コミュニケーション力」については、それぞれのグループ活動に関わってくださった地域の方々とのやりとりによってコミュニケーション力がついたと多く回答している。

自分たちが目指しているゴールを協力者に共有することの難しさに気づき、どのように伝えていくのか工夫し、実践したことからこの回答が多くなったと考えられる。

探究活動を通して、各グループでの活動の流れについても質問したところ次のグラフ結果となった。こちらに關しても評価の理由を記載させたが、概ね自分たちの力である程度の結果を導き出せたことに満足はしていた。しかし、「次の課題」を各グループが気づき、その課題の解決に対して活動を進められなかったことに対して悔いている様子が感じられた。これは、生徒自身に「探究サイクル」が身についた結果と思われる。

4-1 探究活動の流れについて



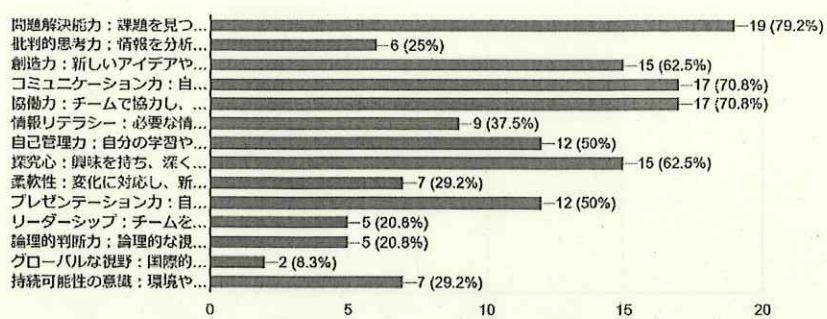
続いて、活動に関する質問について、各グループで「問い合わせ」と「仮説」を設定したが、「仮説」は活動中も変化していった。しかし、各々が目標を設定して取り組んでいた様子が受けられる。(右図)

「楽しみながら活動できたか」「自信や力をつけることができたか」という質問に対しての回答は、概ね主体的に楽しみながら取り組めたと見ることができる。

(6-1、6-2)

1-1 活動を通じて身に着けた力(該当するものすべて選択)

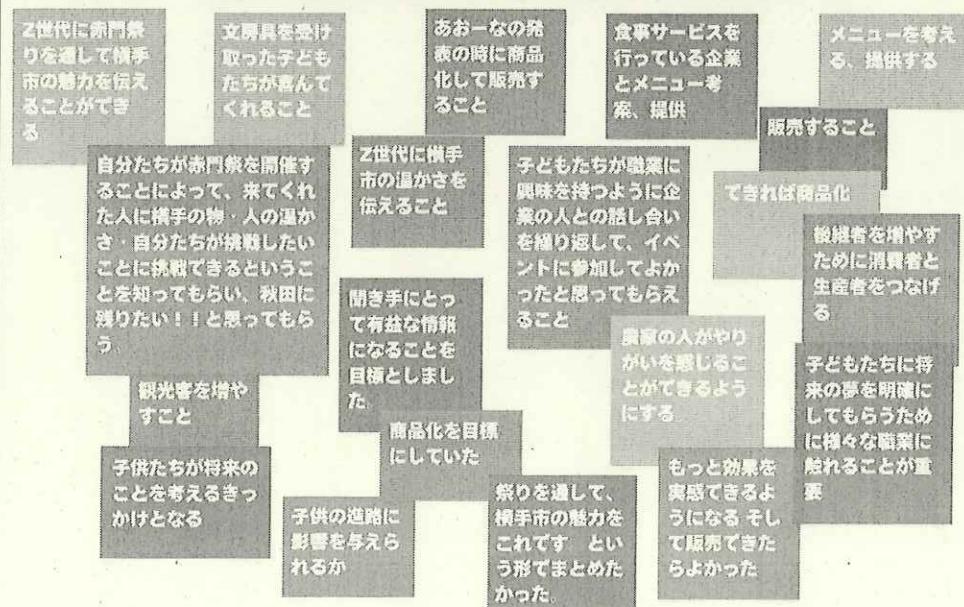
24件の回答



第19期生 3年地域文化コース
「探究特集」振り返り

何を目標として活動をしていましたか？

2025/01/22



次に生徒自身がこの活動を通して感じ取ったことについてだが、様々な気づきが生まれたことに着目したい。今まで「当然のこと」として言葉では表現されていたが、実感がこもったものではなかったと思う。初めて、生徒の実感が込められた言葉として表されたと感じた。とても象徴的だったと思われたのは「協力してくれる大人がたくさんいた」「自分たちが知らなかつた（知ろうとしていなかつた）だけだつた」などの感想が複数上がっていたことである。自分たちが動いたことでたくさんのことを行なったことを学校の先生以外が教えてくれ、そして自分たちの力で「自分たちの周りの世界」を少しでも動かすことができ、自分事に出来たことが様々な気づきにつながつたと思う。

探究活動を通して、社会に対しての新たに得られた発見やそこから導き出された自分なりの考えがあれば入力してください。

▼問題解決能力→これから社会に出たときにすごく求められるものだと思うから得られてよかったです

▼世の中には、自分の知らない職業がたくさんあって、たくさんの職業があるから社会が作られていることがわかつた。

▼実際に一人暮らしをしている高齢者が多いことや一人暮らしによって食事のバランスが悪くなり生活の質に影響がでていることがわかつた。そのことから実際に高齢者の食事を管理することに携わって健康を支える手助けをしたいと思った。

▼協力してくれる大人がいること、大人たちの力を活用させていただくことで私たちがやりたいことを実現させられるということにきづけた。

▼些細なことにも疑問を持って生活することが大切だと感じました。

▼今までではあまり気にしていなかつた高齢者に対するサービスが充実していた。

▼小さなイベントでもたくさん的人が関わって、話し合いなど繰り返して準備する工程が多いことを初めて知つた。自分達で開催したイベントでも開催場所が学校だったため、たくさんの先生方や企業の方に協力してもらって、思ったよりもやることが多くて大変だと感じた。

▼普段生活している中では気づかなかつたけど、実際に調べてみると、観光に特化したイベントが秋田でも行われていた（実際に秋田県南で行われている小正月行事のスタンプラリーなど）ので、知るうとすることが何よりも大事だと思いました。実態や行われている取り組みを知らないだけで、横手市は観光客が少ない、取り組みもされてないと先入観で決めつけてしまうのは良くなかつたと思いました。

▼やろうと思う行動力が大切だと強く感じた

▼自分とは年齢も生き方も違う人たちと行動を一緒にして、物事の見方が変わつたと思いました。案を出す人が上手な人が多かったので物事を客観的に見ることで、正面から見た時とは違う見ができるということに気づくことができ、客観的な見方が身に付きました。他にも、高校生だけでは成し遂げられなかつたことなので、行動に移すための自信にもつながりました。

▼創造力：農家さんがやりがいを感じることができる策を考えることができた。（道の駅に消費者の声スポットを作りたいなど）

- ▼子供のうちから社会に触れ始めるのはいい経験、それを企画開催するのもいい経験。子供も内から職業に触れると、進路に影響を与えられる
- ▼環境のために無駄となるべくなくすことの難しさ。分析の大変さ
- ▼子供の私たちでも自ら動き、大人に協力を求めて手伝ってくれる方がいることがわかり、行動に起こすことが大事だと改めて感じました。活動していくと計画通りいかないことが多くあったけど、その時こそ友達と話し合い焦らずほかの方法も絶対にあるからそれを探していくことが大事だと思いました。
- ▼探究活動を通して、今まで以上に横手の魅力を発見することができました。横手の知らなかつたお店を知ることができたし、ものだけではなく人柄にも気がつくことができました。大人は協力してくれると想像はできていたけど、こんなにも親切で細かいところまで助けてくれると思っていました。3年生の探究は大変で忙しくて、嫌になることもたくさんあったけど横手の温かい大人の皆さんのおかげでここまで頑張り続けられたと思います。今回助けて支えてくれた大人の方々のことは本当に忘れないし、私もそんな大人になりたいと強く思いました。
- ▼探究活動を通して、農業は自分がやりたい！興味がある！と思った人たちができるようにサポートしていく必要があると考える。また、農業体験を通して、消費者側は食べられることに感謝すること、働く人の大変さを理解することが改めて大切だと思った。
- ▼高校生の活動に進んで協力してくれる大人がいることがわかった。こういう大人がたくさん増えたらよりよい地域になると思った
- ▼ひとりひとりの活動が合わさってひとつの取り組みになるんだなーって考えになりました
- ▼廃棄されるものでも新たに手を加えることによって利用できるものになるということを知ることができました
- ▼やりたいことがある時に助けてくれる大人が沢山いるということ
- ▼探究活動を通して私は何事にも探究心をもって取り組めばもっと考えを深めるきっかけにつながると思いました。

「探究発展」の活動を通して、終わりのない「探究のサイクル」から生徒たちはたくさんの学びを得、活動の成果を次のステージへと繋いで欲しいと感じている。そう思うほどに活動に対する思い入れも芽生えたのではないだろうか。次への提案をみても、彼らの中ではまだまだ結論には至っていないと感じていることが伺える

今回の探究活動後にどのような展開が考えられるか。次の目標とするアイデアを提案してください。

- ▼赤門祭を年2回にしたり、更に規模・地名度を上げる。→更に参加者も運営も地域参加型にする。次は温かさだけじゃなく、県外流出防止に繋げられる行動をしてほしい。
- ▼後輩の子達が祭りを引き継いでくれて、私たちよりも盛り上げてくれるよう引き継ぎ資料を作成し残していきたい。
- ▼反省点を生かした活動。年に2,3回の活動にできないか
- ▼赤門祭りは100年続くお祭りというキャッチフレーズがあるので、その通りにこれからも長く続き横手市の魅力を届けられるようなお祭りになっていってほしいと思います。
- ▼（文房具などの提供は）何度も繰り返しできることだし、こんどはひとり親が欲しいものなどターゲットを変えてもいいと思う
- ▼（リンゴ染めの普及のために）原点にもどって小物を簡単に制作する方法を考える
- ▼染め物で実用的なものを作る
- ▼（観光客数を増やすための取り組みは）実際にやってみて、効果はあるのかという展開が考えられると思います。ただ、実際に行うのは難しいと思うので、身近で自分たちのできる範囲で何が行えるのかを考えていって欲しいです。

- ▼横手の観光客数が増える、横手の魅力を行事で詳しく知ってもらう
- ▼道の駅に「消費者の声」のスペースを設ける
- ▼（おしごと体験を）清陵の年間行事にする
- ▼企業の人だけでなく、もっと地域の身近な大人にも話を聞いて交流する機会があればたくさんの協力者を得られたと思うし、いろんな人の意見を得られたと思う。体験者アンケートにも今後もやってほしいという意見があったので後輩に継続してほしいと思う。
- ▼今後も継続してお仕事体験のイベントを開催すること。
- ▼次の学年に引き継いでもらいたい
- ▼もっと職業を増やして、時間をゆっくりとって、対象年齢を広げ人数を増やし、子供に体験させるとよりいい結果が出ると思う。
- ▼（高齢者用の宅配は）横手市だけで行ったからほかの地域とも連携して活動を広げていけばいいと思った。
- ▼実際に自分たちが弁当作りに加わることです。
- ▼メニューに対する感想をもらったからそれを活用してもう少しメニューを改善させる
- ▼もっといい匂いの（酒粕）バスボムにしたい
- ▼賞品をどの年代からも好かれるものにする
- ▼質の高いバスボムを作つて商品化し、販売
- ▼バスボムではなく酒粕パックを作ればいいと思う
- ▼酒粕パックなどもっと簡単なものをつくるべき

以上のように、活動したからこそ現実味のある提案が出来るようになったと思われる。次年度はこれらの提案を踏まえ継続探究につなげてもらいたい。

後輩たちへのメッセージ

- ▼清陵の良さの一つとして（探究は）続けてほしい
- ▼（探究は）自分たちで一から考えるので大変だけど頑張ってください。
- ▼ぜひ今回の私達の活動を引き継いでもらいたいです
- 実際にイベントを運営することの大変さ、思いを伝えれば協力してくれる大人の温かさ、そしてイベントに参加してくれた参加者の笑顔など普段の生活では感じられないことを実感できます。正直、大変なことばかりですが班員の人と協力することで活動が成り立ち自分の成長にもつながったと思います
- ▼仮説や問い合わせることは難しいと思うけど、身近なところにたくさんあるので視野を広げて考えることが大切だと思います。
- ▼このイベント（おしごと体験）を継続してほしい
- ▼自分の問い合わせに対して色々な角度から取り組んでほしい
- ▼今回、私たちはZ世代を中心に横手市の魅力を伝えられるようにしたけれど後輩たちにはZ世代というように年代を区切って魅力を伝えるというかたちでもいいと思う。後輩のやりたいと思うこともこの赤門祭に組み込んで取り組んでほしいと思うし、どんどん新しい赤門祭を追求し、続けていってほしいと思います。
- ▼私たちの発表の継続でも新しい企画でも頑張ってください
- ▼探究めんどくさいと思うかもしれないけど自分で行動してどんどん楽しくしてくと火曜日の午後はほぼ授業じゃなくなるよ！！！！！！！！
- ▼やった分だけ未来の自分の自信と力になるし、やった人は壁にぶつかっても乗り越えられる力を獲得できると思う。一人でやろうとしたり自分でどうにかしないとてなる人が絶対出てくると思うけど、友達と協力して効率的に活動してほしい。受験の面接のときに探究活動が本当に役立った。赤門祭継続お願いします！
- ▼私たちは今回、赤門祭を通して、横手の温かさを伝えることができなかつたので、後輩の子たちにはぜひ引き継いでほしいです！大変なこともたくさんあったけど、それよりも楽しさや達成感を感じることができる活動だし、大きな自信につながるのでチャレンジしてみてほしいです！

- ▼がんばれーー
- ▼早めの行動が大切です
- ▼身近に疑問はたくさんあります

「後輩たちへのメッセージ」から生徒たちは主体的に活動を進められたこと。また、この活動から多角的な視点を獲得できたことが見受けられる。

この一年間の授業を通して生徒たちが主体的に活動できたことが何よりの成果だと感じている。

▼3年生になってからの探究の授業は大変なことが多かったけど無事活動をおえることができて良かった

▼先生のアドバイスもあり、できたことが沢山の探究でした！大変なこともたくさんあったけれど楽しいこともたくさんでした！ありがとうございました！感謝いっぱいです

▼探究発展、楽しかったです。ありがとうございました。

▼探究のおかげでちょっと成長したかなとおもってます。これから大変なこととかあっても頑張ります。

生徒の感想を見てみると「知らないことを知る喜び」と「向き合ったときにはすぐに受け止めてくれる人がいることの喜び」を知ることができたようだ。このことを知ることができただけでもこの授業の価値はあると思う。

「やって良かった」と感じるくらいに充実した時間だったと生徒が評価したことが我々にとって最も価値があることではないだろうか。今後も生徒の力を引き出すことが出来る「探究発展」の時間にしていきたい。

(田口)

3 まとめ

本校では、「探究基礎」「探究」「探究発展」の3段階に分けた探究活動を実施した。この体系的なカリキュラムのもと、生徒は自ら問いを立て、調査・分析し、成果を発表する経験を積みながら、課題解決能力を高めている。その結果、学校全体として一歩であるが成果が得られた。

まず、高校1年生の「探究基礎」では、生徒が興味関心に基づき問い合わせを見つけ、仮説を設定する力を養った。特に、中間発表を通じて、他者の意見を取り入れる姿勢や批評的思考を身につけることができた。また、最終的にスライド発表やポスターーションを行い、自らの考えを他者に伝える力も向上した。この段階を経ることで、2年次以降の探究活動に向けた基礎スキルが確立された。

次に、高校2年生の「探究」では、より深いテーマ設定と本格的な調査・分析に取り組んだ。生徒はグループで課題を選定し、データ収集やインタビュー、実験などを通じて検証を進めた。特に、発表会での相互批評を通じて、論理的思考力や情報の妥当性を判断する力が前進した。また、研究成果の発表にあたっては、校内外でのプレゼンテーションの機会を設け、地域社会や専門家との交流を通じて、社会課題の解決に向けた視点を養った。この活動を通じて、生徒は課題解決力やプレゼンテーション能力をさらに伸ばし、実社会での応用力を高めることができた。

そして、高校3年生の「探究発展」では、地域文化コースの生徒が地域課題の解決に向けた探究活動を行った。グループで活動し、新たな問い合わせを設定し、調査・検証を重ねながら成果をまとめた。特に、今年度初めて実施した校外発表会では、地域住民との対話を通じて新たな視点を得ることができた。来場者数の課題はあったものの、積極的な質問が寄せられたことで、地域とのつながりを深める機会となつた。今後も発表会を継続し、より多くの地域住民や専門家と交流することで、本校の探究活動のさらなる発展を図っていきたい。

これらの探究活動を通じて、生徒は課題発見・解決能力、探究心・知的好奇心、情報活用能力などのスキルを伸ばすことができた。一方で、国際性・異文化理解の向上は課題として残った。これは、生徒が自ら選んだテーマ上、致し方ない点はあるが、例えば、比較地域を全世界にするなどグローバルな視野を持つ探究活動はこれまでと同じく推進していく。これからも本校では、生徒が主体的に学び、社会に貢献できる力を育成する探究活動を発展させていく。（須田）